

資料1

令和4年12月26日(月)

飯塚市地域公共交通協議会

(案)

飯塚市地域公共交通計画

令和5年3月

飯塚市

—目次—

第1章 計画の概要	1
1 計画の策定経緯.....	1
2 計画の位置づけ.....	2
3 計画の対象区域.....	2
4 計画の計画期間.....	2
5 計画策定の流れ.....	3
第2章 飯塚市の地域特性と公共交通の現状	4
1 飯塚市の地域特性.....	4
2 飯塚市の公共交通の現状.....	33
第3章 上位関連計画の整理	63
1 公共交通に関わる飯塚市の上位関連計画.....	63
第4章 第2次飯塚市地域公共交通網形成計画における目標達成のための取り組み	70
1 施策の実施状況.....	70
2 数値目標の達成状況.....	77
第5章 市民及び事業者の意向調査	78
1 市民アンケート調査.....	78
2 コミュニティ交通利用者アンケート調査.....	106
3 交通事業者ヒアリング調査.....	121
第6章 飯塚市公共交通の課題	132
第7章 計画の基本理念及び基本方針	135
1 飯塚市地域公共交通計画の基本理念及び基本方針.....	135
2 地域公共交通の位置付けと役割.....	136
第8章 計画の目標及び目標達成のための実施施策	142
1 計画の目標.....	142
2 実施施策.....	143
3 目標の達成状況を評価するための評価指標と評価手法.....	151
第9章 計画の達成状況の評価に関する事項	154
1 目標の達成状況や社会情勢の変化に伴う計画の見直し.....	154
2 評価スケジュール.....	155

第1章 計画の概要

1 計画の策定経緯

飯塚市では、公共交通に関わる計画として、2008年度に「飯塚市地域公共交通総合連携計画」を、2011年度には「飯塚市生活交通ネットワーク計画」（計画期間：2012年度～2014年度）を策定し、この間、定時定路線型のコミュニティバスやデマンド型の予約乗合タクシーの運行をスタートさせ、自宅から目的地まで、公共交通の乗り継ぎによる利用を可能とし、市民誰もが快適な生活を実現できる公共交通体系の構築を図ってまいりました。

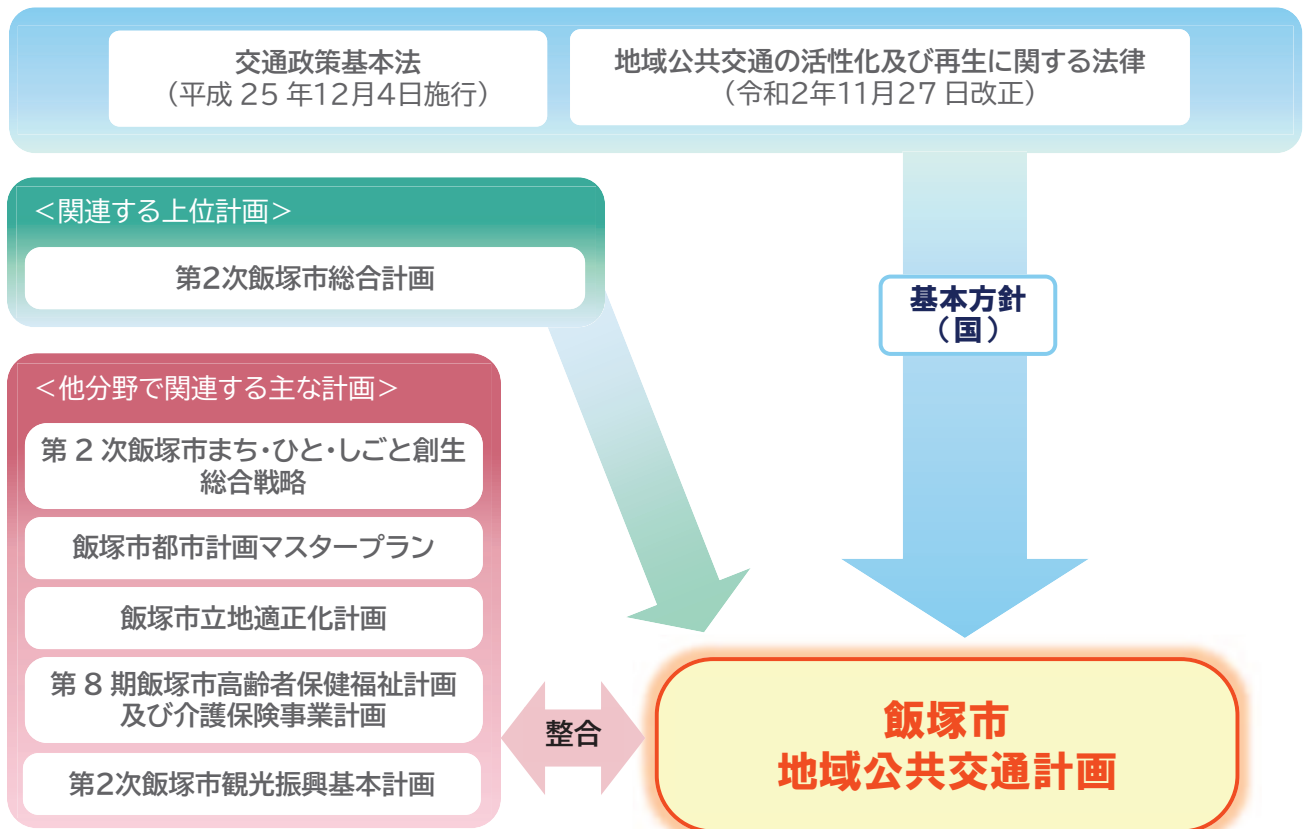
その後、交通政策基本法の制定（2013年12月4日施行）や地域公共交通活性化再生法の改正（2014年11月）など、国の方針が定められたことから、2015年に「飯塚市地域公共交通網形成計画」（計画期間：2015年度～2017年度）、2018年に「第2次飯塚市地域公共交通網形成計画（以下第2次計画）」（計画期間：2018年度～2022年度）を策定し、拠点連携型のまちづくりと一体的、かつ地域の実情にあった持続可能で効果的・効率的な公共交通体系の構築、並びに地域内外の移動を支え地域の活性化に寄与する公共交通体系の構築を図ってまいりました。

第2次計画の策定から5年が経過し計画期間の終了を迎える中、社会情勢の変化や市の公共交通に係る関係計画の改訂、さらには利用者のニーズが多様化するなど、公共交通を取り巻く環境は年々変化しています。また、自動車運転免許取得の増加や人口減少、コロナ禍の影響等により、長期的な公共交通利用の低迷とそれに伴う運行事業運営の悪化が引き続く中、現在の公共交通のあり方を見直し、地域の特性を踏まえた利便性が高く誰もが利用しやすい、市民の暮らしを支える持続可能な地域の公共交通を構築し、確保・維持していくことが重要となっています。

このような状況を踏まえ、既存の地域公共交通を見直し、地域の特性や住民ニーズに即した持続可能な公共交通ネットワークを構築するため、令和2年11月に改正された地域公共交通の活性化及び再生に関する法律第5条に基づく法定計画として、地域交通のマスタープランとなる「飯塚市地域公共交通計画」を策定します。

2 計画の位置づけ

「飯塚市地域公共交通計画（2023年度～2027年度）」は、市政運営における総合的な指針である「第2次飯塚市総合計画（2017年度～2026年度）」をはじめ、「飯塚市都市計画マスタープラン（2022年～2031年度）」「飯塚市立地適正化計画（2017年度～2026年度）」「第2次飯塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2020年度～2024年度）」などの上位関連計画との整合性を確保した、公共交通のマスタープランとして策定します。



3 計画の対象区域

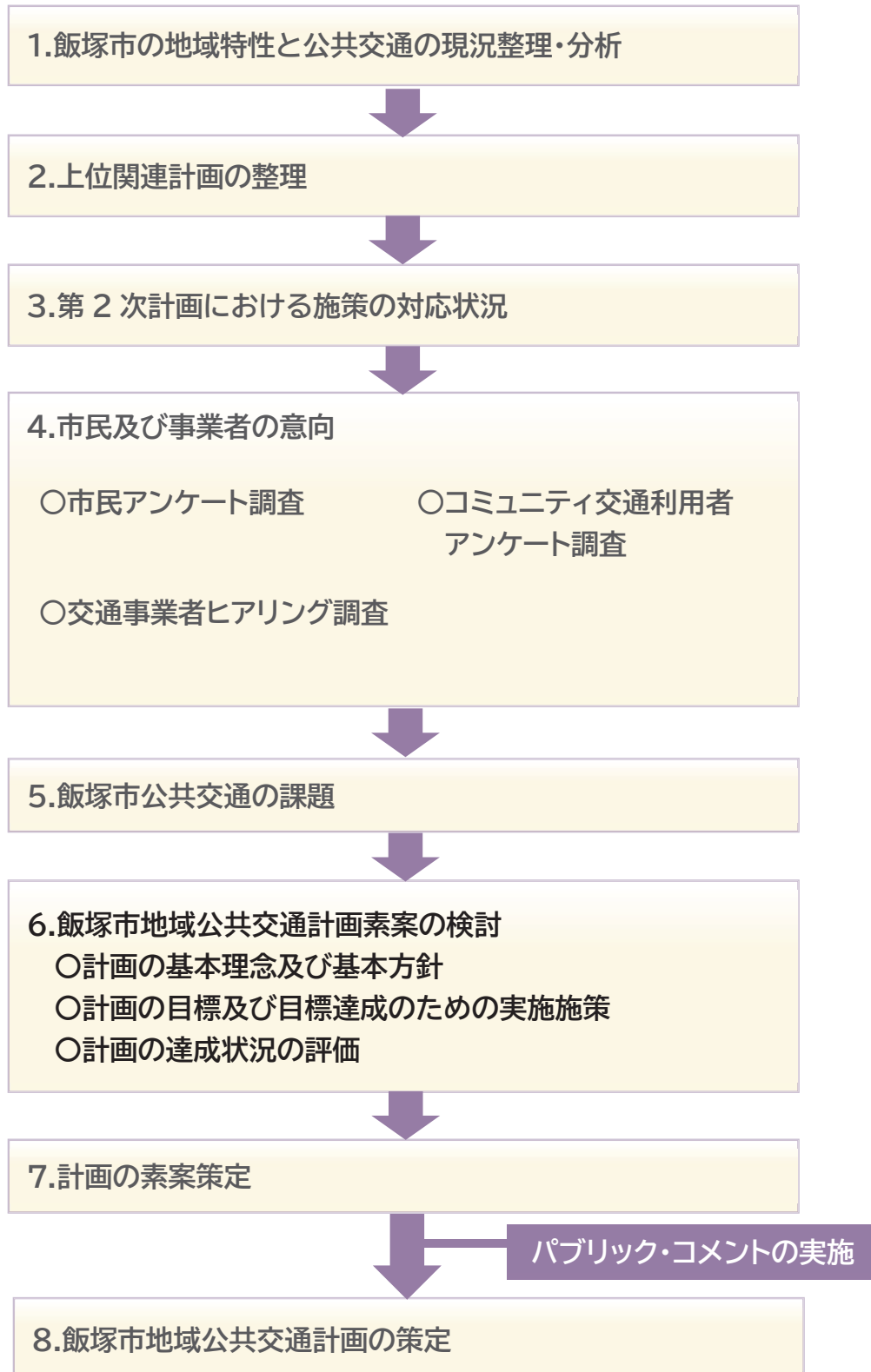
本計画の対象区域は飯塚市の全域とします。なお、必要に応じ近隣市町も対象とします。

4 計画の計画期間

本計画の期間は、2023年度から2027年度の5年間とします。

5 計画策定の流れ

本計画の策定にあたっては、学識経験者、交通事業者、地域住民、市等で構成する「飯塚市地域公共交通協議会」で協議・検討を行うとともに、パブリック・コメントにおいて市民の意見を反映させ策定しました。



第2章 飯塚市の地域特性と公共交通の現状

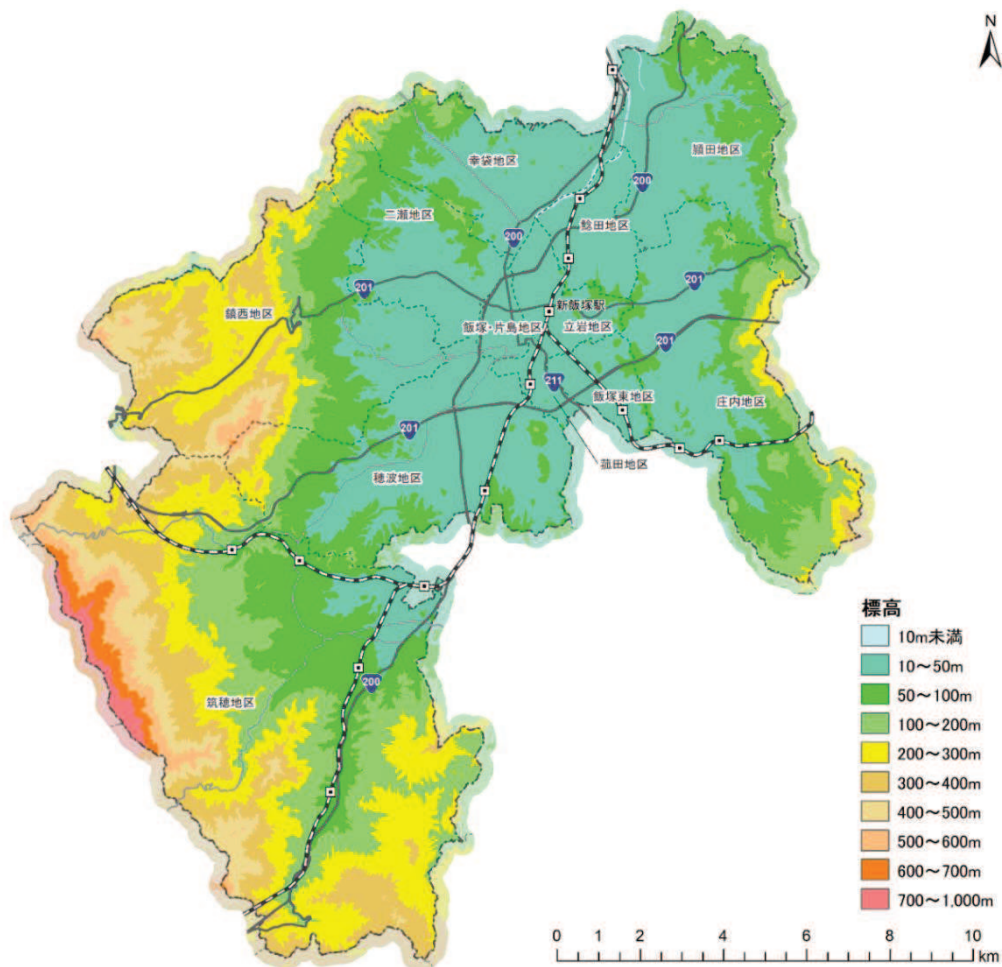
1 飯塚市の地域特性

飯塚市内の地域公共交通における課題を把握するために、各種データ（人口の状況、通勤・通学流動、土地利用、施設分布など）を収集・整理しました。

1-1 地勢・沿革

1) 地勢

- 本市は、福岡県のほぼ中央に位置し、西は福岡市を中心とする福岡都市圏に、北は北九州市を中心とする北九州都市圏に近接し、面積 213.96 km²の市域を有する。市域内には国道やJRが東西南北に通過しており、交通の要衝としての特性を持っています。
- また、市域中央には南北に流れる遠賀川に沿って平野が広がっており、東は関の山、西は三郡山や龍王山等に囲まれ、良好な自然環境が多く残されています。周囲を囲む山地により盆地を形成しているため、夏冬、昼夜の気温差が大きく、内陸性気候の特性を持っています。



資料：基盤地図情報

▲ 飯塚市の地勢

2) 沿革

- 本市は、2006(平成18)年3月26日に旧飯塚市、旧穂波町、旧庄内町、旧筑穂町、旧穎田町の1市4町が合併し、新しく「飯塚市」が誕生しました。
- また、市内には12か所の交流センターを拠点とした「まちづくり協議会」が設置されています。

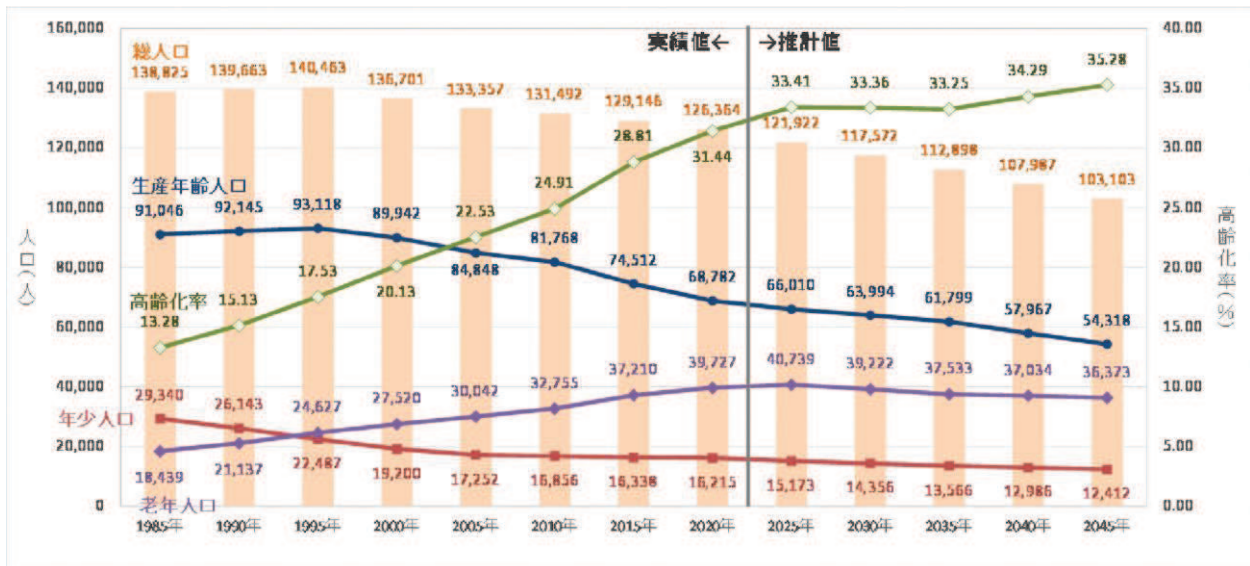


▲ 旧市町村界及び地区界

1-2 人口

1) 人口及び高齢化率の推移

- 飯塚市の総人口は1995（平成7）年の140,463人をピークに減少傾向となっており、2040（令和22）年には11万人を下回ると推計されています。
- 年齢3区分別人口を見ると、年少人口（0～14歳の人口）と生産年齢人口（15～64歳の人口）はそれぞれ1985（昭和60）年、1995（平成7）年をピークに減少しており、将来についてもこの傾向は変わらないと推計されています。
- 老年人口（65歳以上の人口）は増加傾向になっていますが、2025（令和7）年の40,739人をピークに減少に転じると推計されています。
- 総人口に占める老年人口の割合を示す高齢化率は、2020（令和2）年には30%を超え、2045（令和27）年には35%を超える見込みです。
- 2005（平成17）年から2020（令和2）年までの人口推移を地区別にみると、どの地区も老年人口は増加傾向にあります。
- 2020（令和2）年現在の高齢化率が飯塚市全体よりも高いのは、幸袋、筑穂、颯田、菰田、飯塚東、鯉田の計6地区（全12地区）となっています。



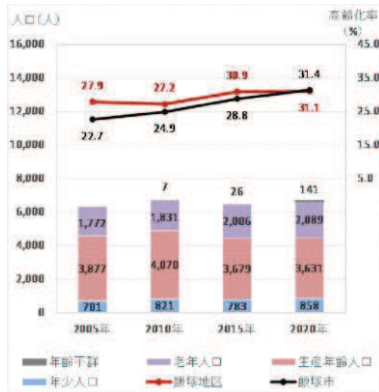
資料：2020（令和2）年国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

実績値：総務省「国勢調査」より集計（総人口は年齢不詳を含むため、年齢3区分別人口の合計値と一致しない）

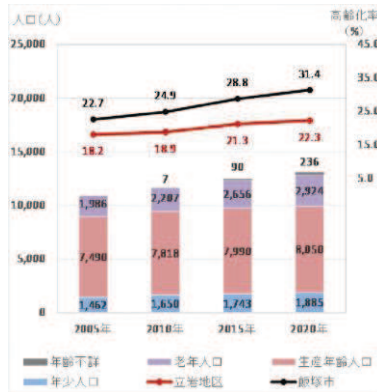
推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」より集計（2015（平成27）年の国勢調査を基準としたもの）

▲ 飯塚市の将来人口推計

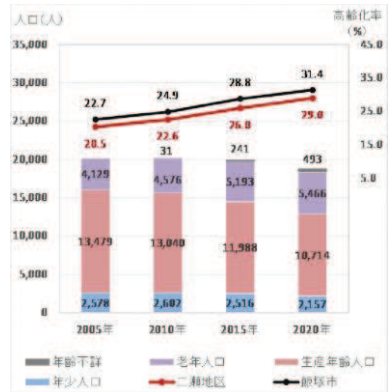
【飯塚・片島地区】



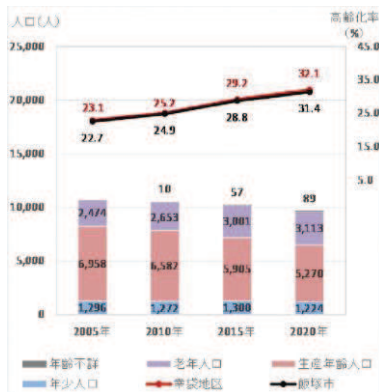
【立岩地区】



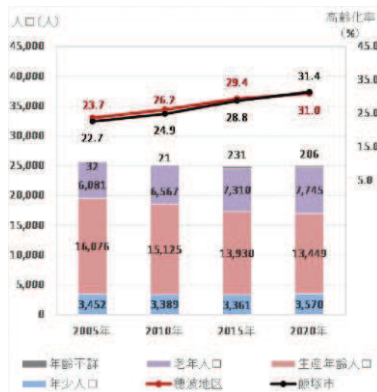
【二瀬地区】



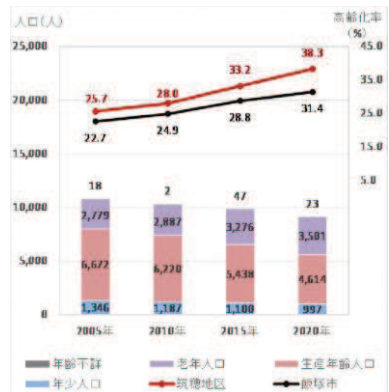
【幸袋地区】



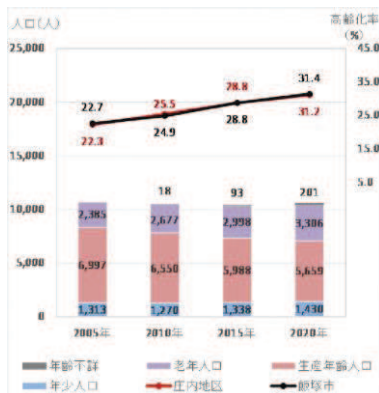
【穂波地区】



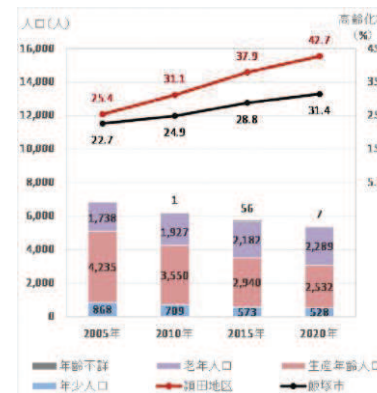
【筑穂地区】



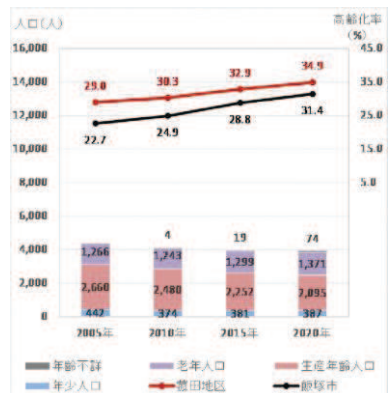
【庄内地区】



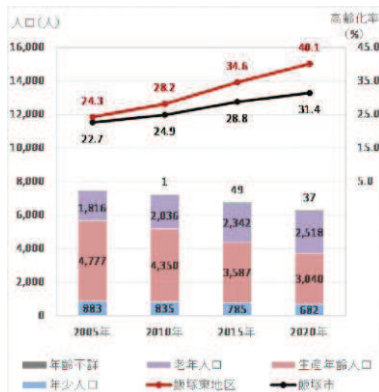
【穎田地区】



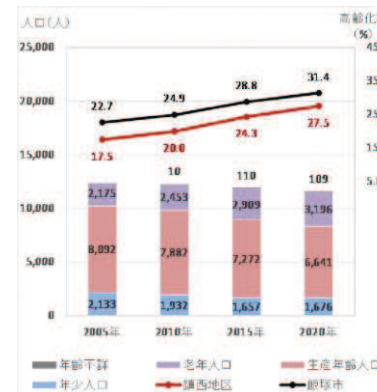
【菰田地区】



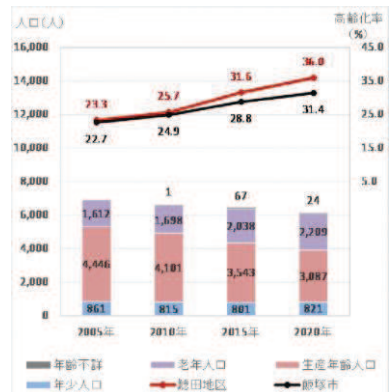
【飯塚東地区】



【鎮西地区】



【鯉田地区】

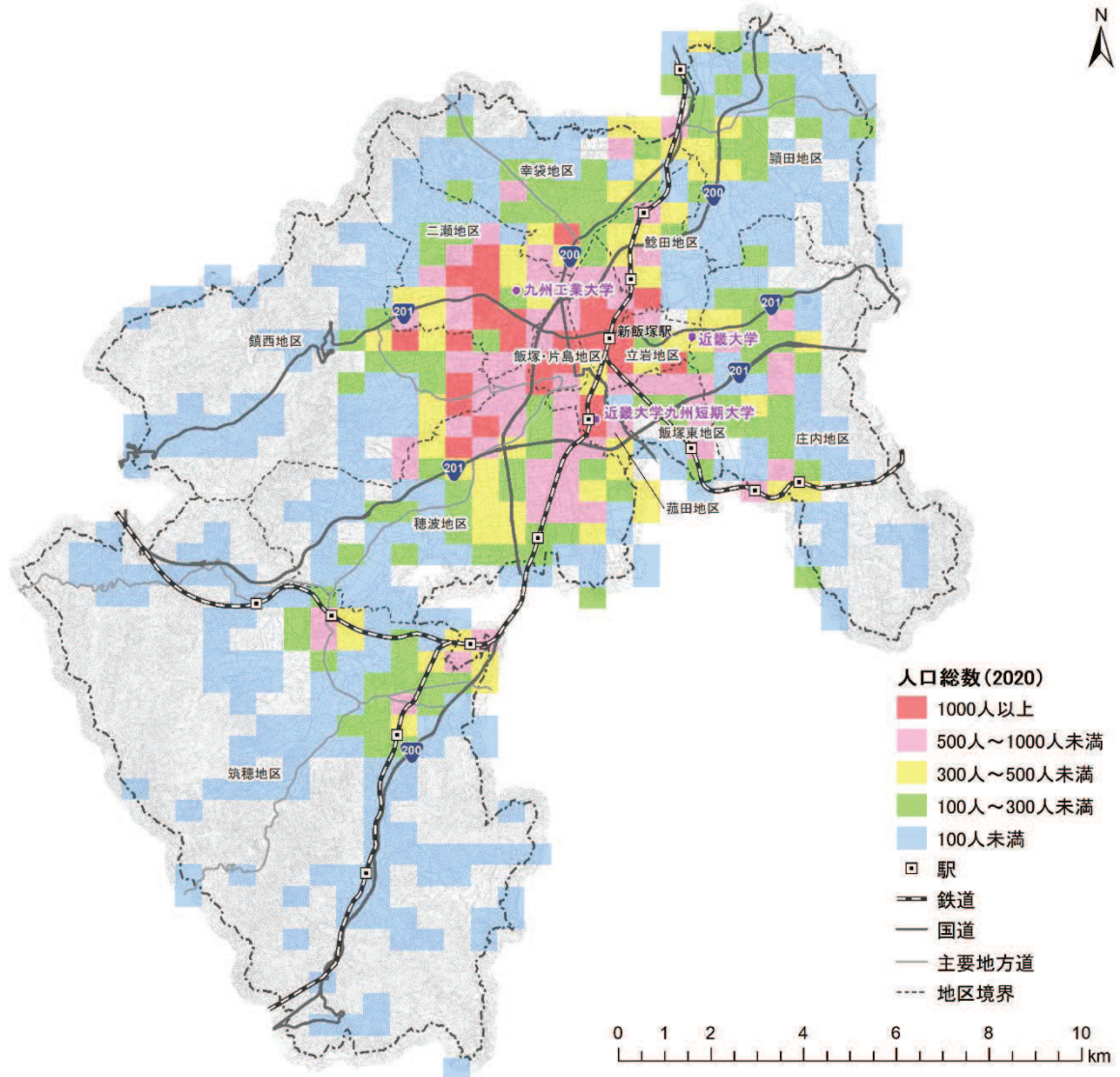


資料：国勢調査各年

▲ 飯塚市の地区別人口推移

2) 人口分布

- 飯塚市の人口分布を見ると、市内中心部や鉄道沿線に人口が集中しているほか、九州工業大学のある相田・伊岐須周辺や近畿大学のある柏の森・下三緒周辺で人口集積がみられます。

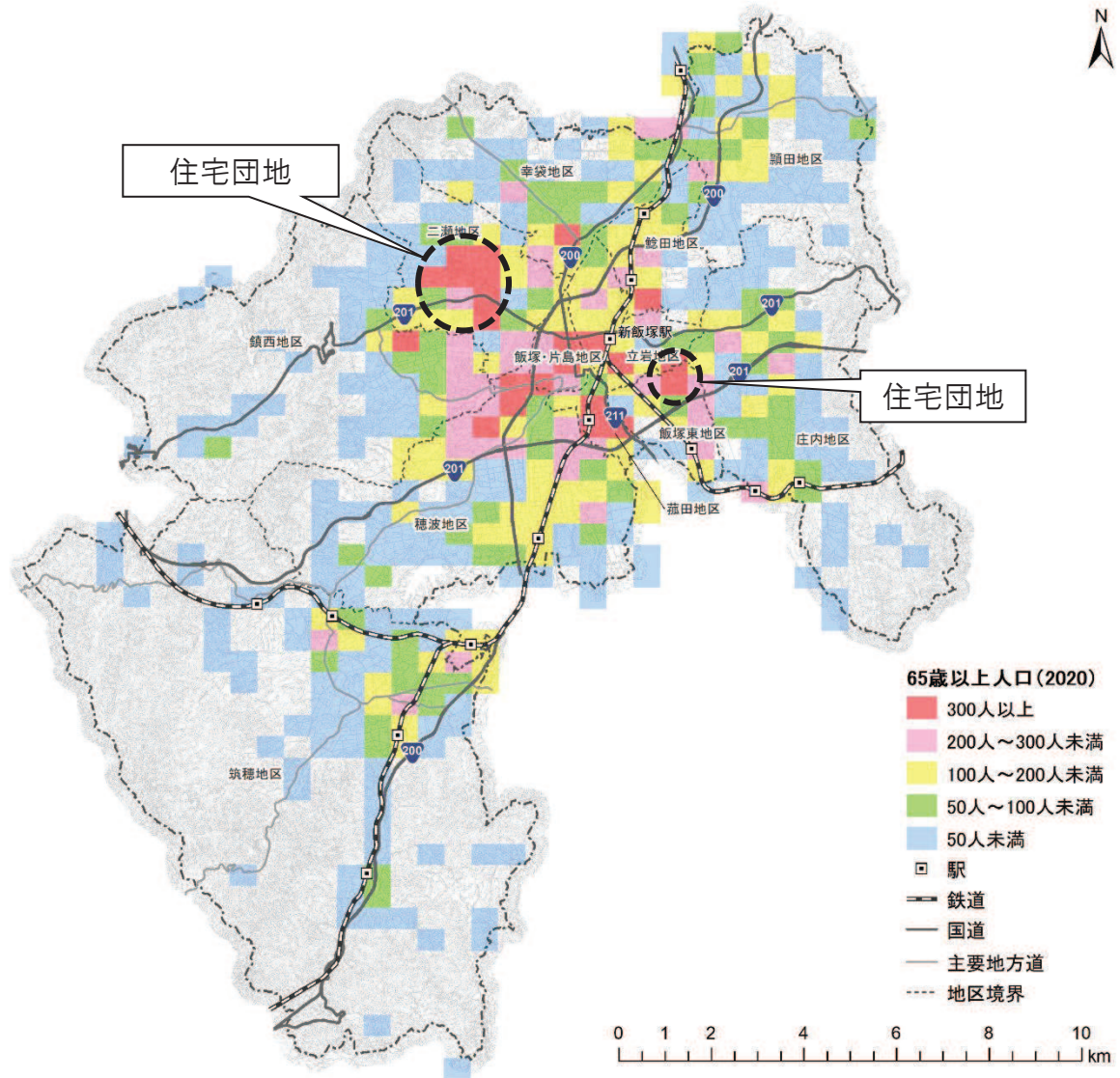


資料：2020（令和2）年国勢調査

▲ 飯塚市 人口分布（500mメッシュ）

3) 高齢者の分布

- 65歳以上の高齢者人口の分布状況は人口分布に即しており、相田・伊岐須や柏の森・下三緒の住宅団地周辺で高くなっています。

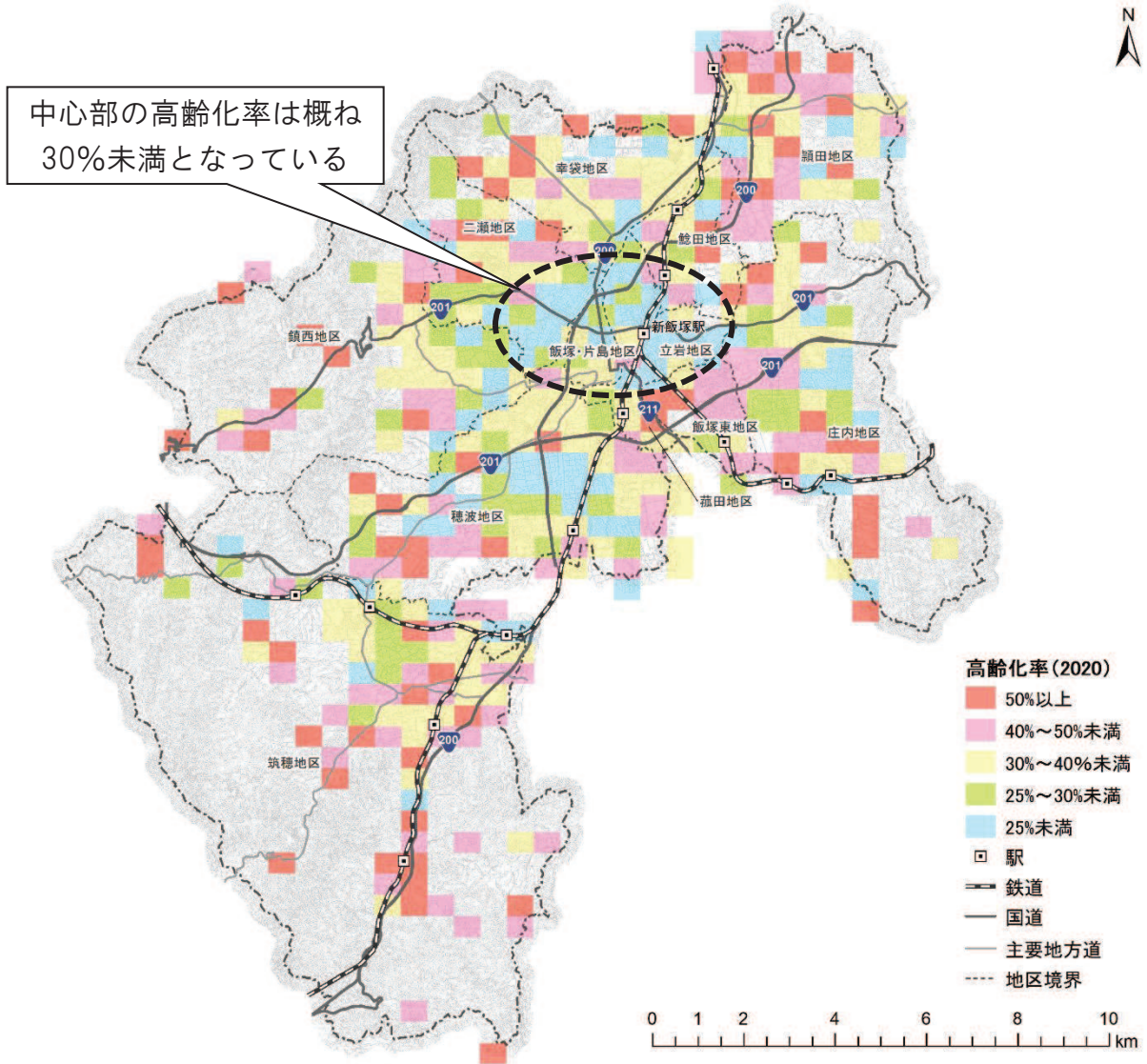


資料：2020（令和2）年国勢調査

▲ 飯塚市 高齢者の分布（500mメッシュ）

4) 高齢化率の分布

- 市内中心部の高齢化率は概ね 30%未満となっていますが、中心部以外では高齢化率 50%以上の地域が散見しています。

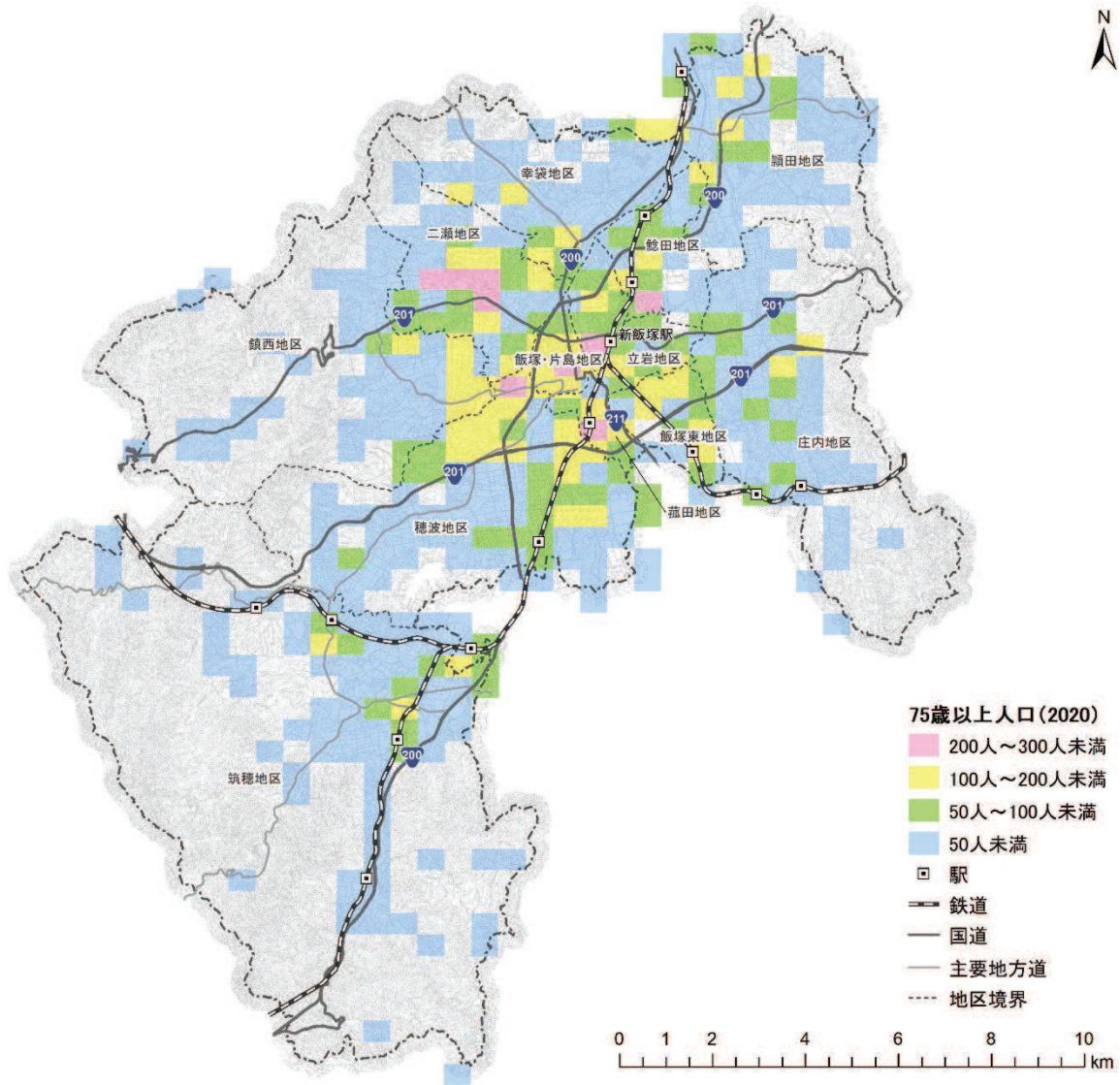


資料：2020（令和2）年国勢調査

▲ 飯塚市 高齢化率の分布（500mメッシュ）

5) 後期高齢者の分布

- 75歳以上の後期高齢者人口の分布状況は、市内中心部や鉄道沿線のほか、相田、枝国などで人口の集積がみられます。

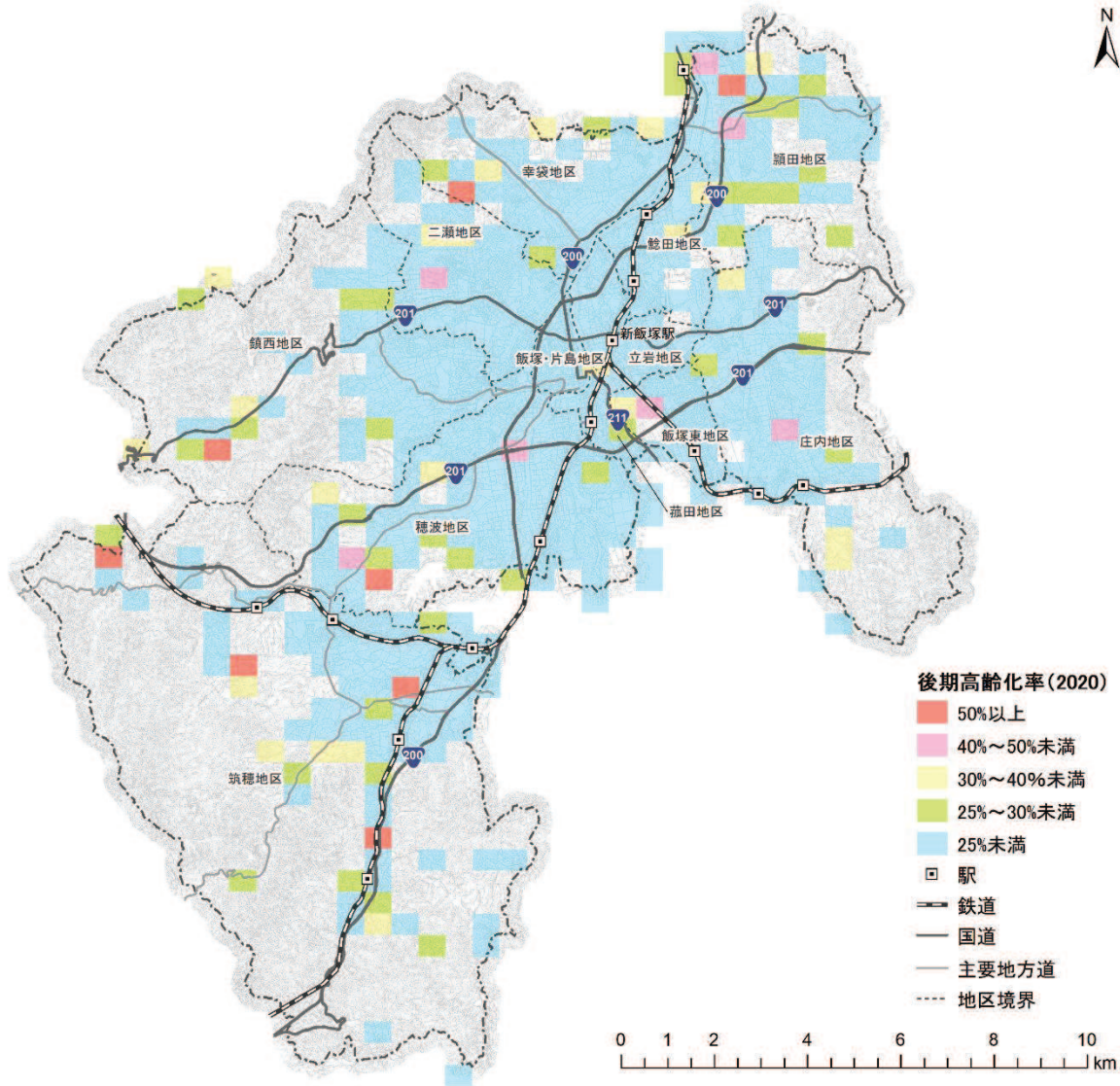


資料：2020（令和2）年国勢調査

▲ 飯塚市 後期高齢者の分布（500mメッシュ）

6) 後期高齢化率の分布

- 鎮西地区や筑穂地区の山間部のほか、勢田、庄司などの一部の地域で後期高齢化率 50%以上の地域がみられるものの、概ね 25%未満となっています。

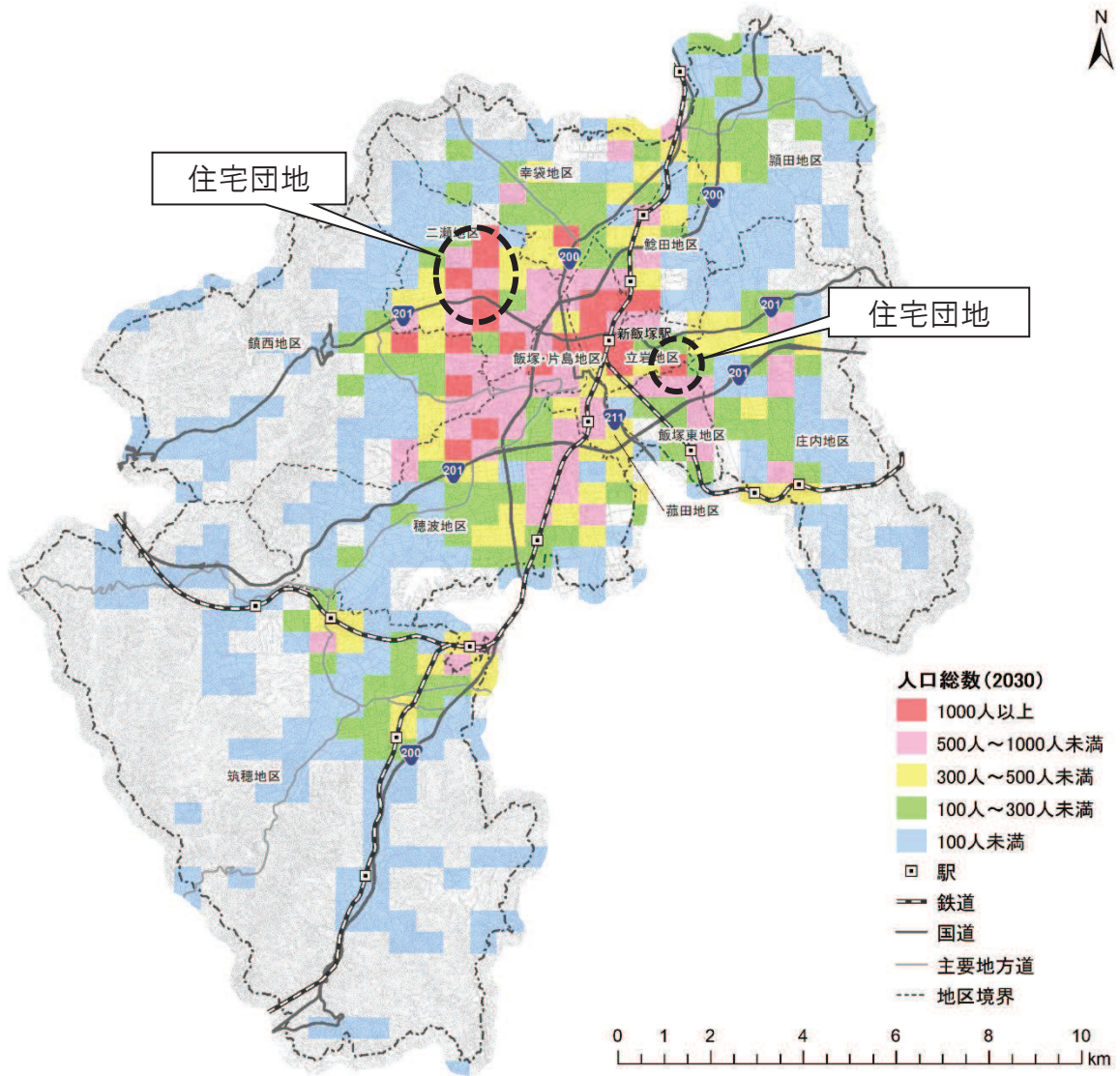


資料：2020（令和2）年国勢調査

▲ 飯塚市 後期高齢化率の分布（500mメッシュ）

7) 将来人口

- 2030年の将来人口は、市内中心部のほか、住宅団地のある相田・伊岐須周辺や柏の森・下三緒周辺で人口集積がみられます。

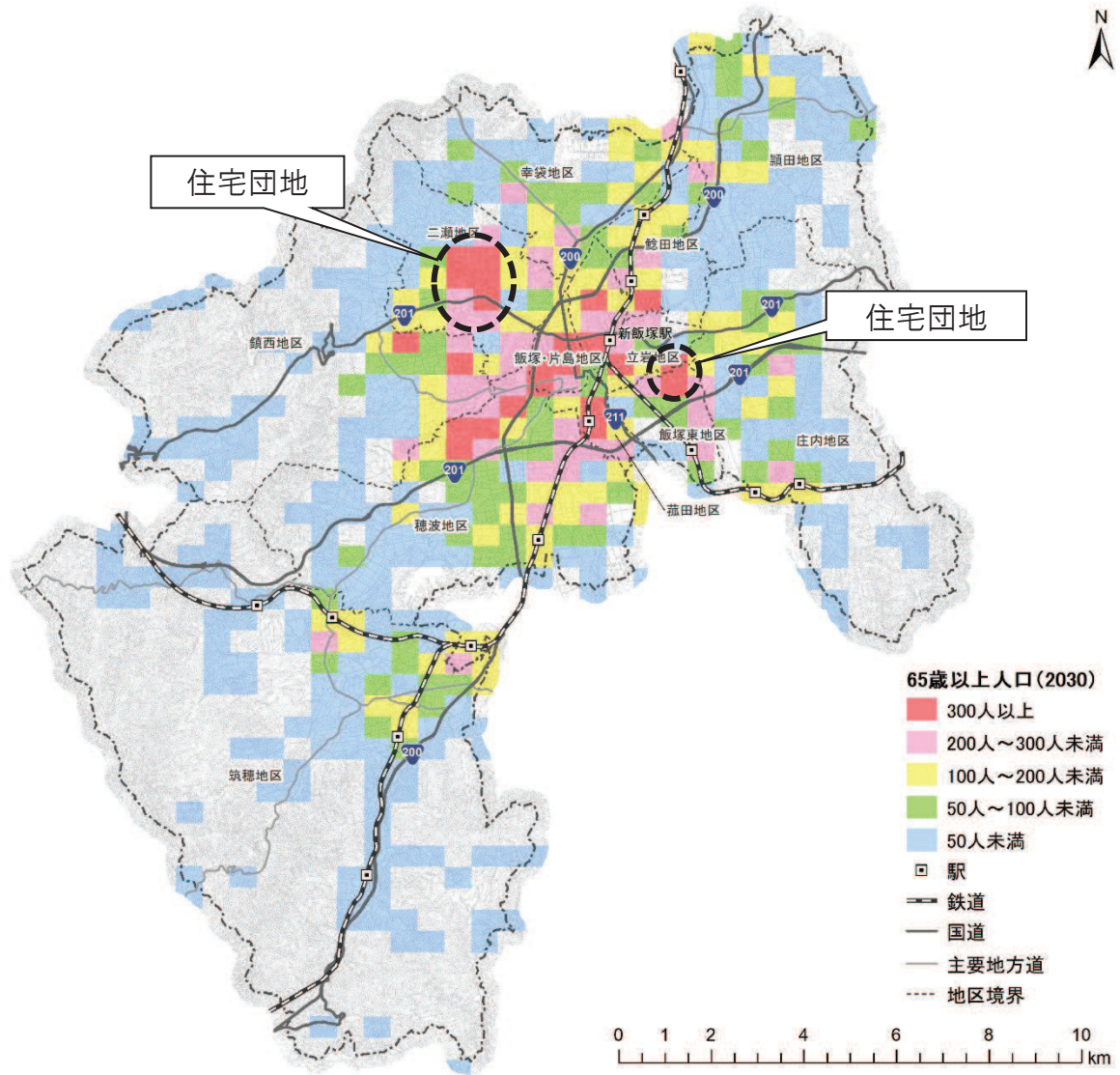


資料：国土数値情報

▲ 飯塚市 将来人口の分布（2030年）

8) 高齢者将来人口

- 2030年の高齢者将来人口は、総人口と同様に市内中心部のほか、住宅団地のある相田・伊岐須周辺や柏の森・下三緒周辺で人口集積がみられます。



資料：国土数値情報

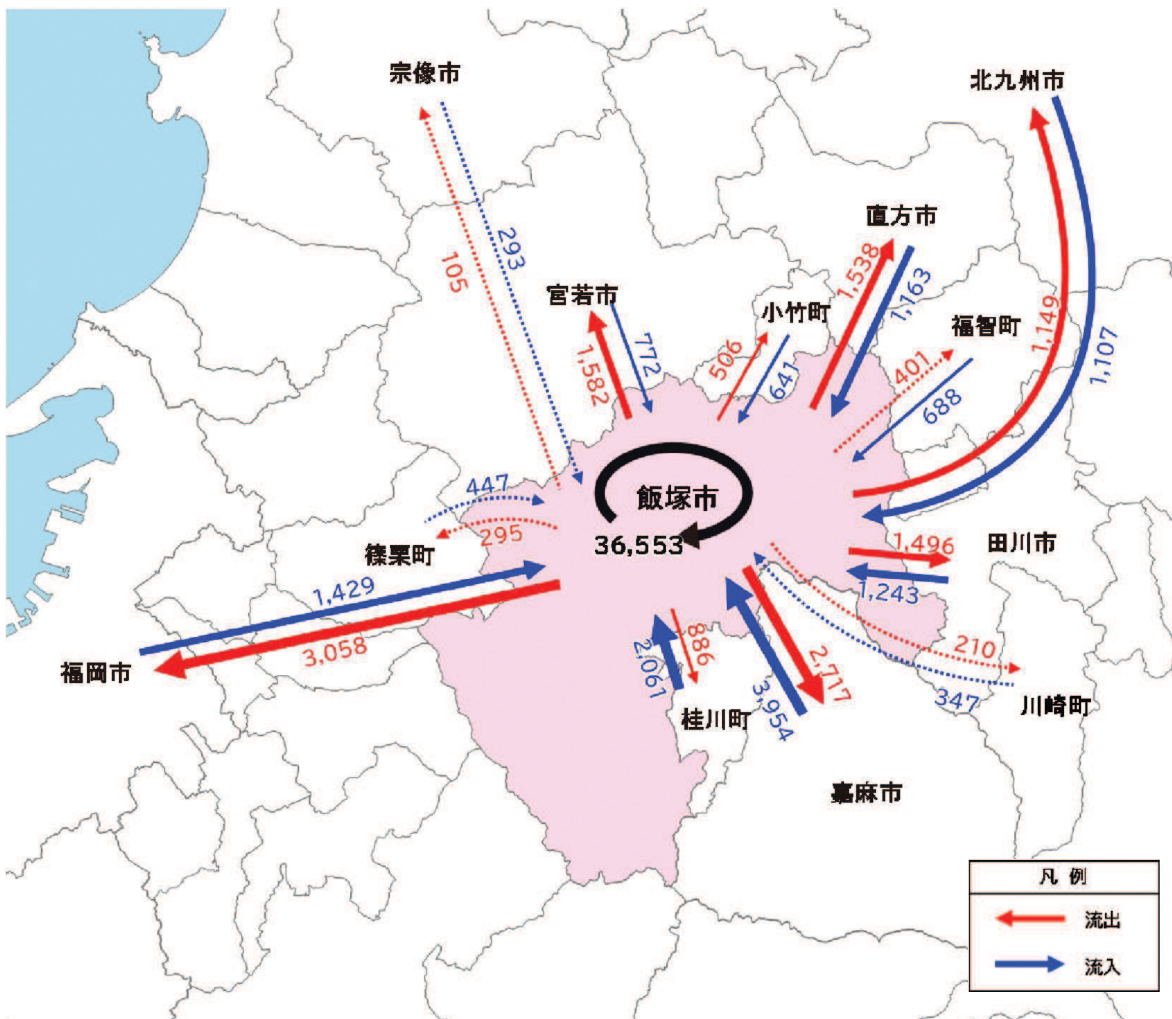
▲ 飯塚市 高齢者将来人口の分布（2030年）

1-3 移動特性

1) 通勤の移動状況

- 飯塚市で就業する就業者数は約5.5万人で、そのうち、約3.7万人（約66%）が市内で就業しており、約1.7万人（約31%）が市外で就業しています。その主な市外就業先としては、福岡市が約3千人（約6%）、嘉麻市が2.7千人（約5%）となっています。
- 市外から飯塚市に通勤している人は、約1.8万人となっており、通勤では流出が約400人多くなっています。飯塚市に通勤している人の主な居住地は、嘉麻市が約4千人（飯塚市内の従業者の約7%）、桂川町が約2.1千人（同約4%）、福岡市で約1.4千人（同約3%）となっています。

	人数	(%)		人数	(%)
市内居住就業者	55,018	-	市内就業者	55,884	-
うち市内就業者	36,553	66.4	うち市内居住者	36,553	65.4
うち市外就業者	17,087	31.1	うち市外居住者	17,507	31.3
うち不詳	1,378	2.5	うち不詳	1,824	3.3

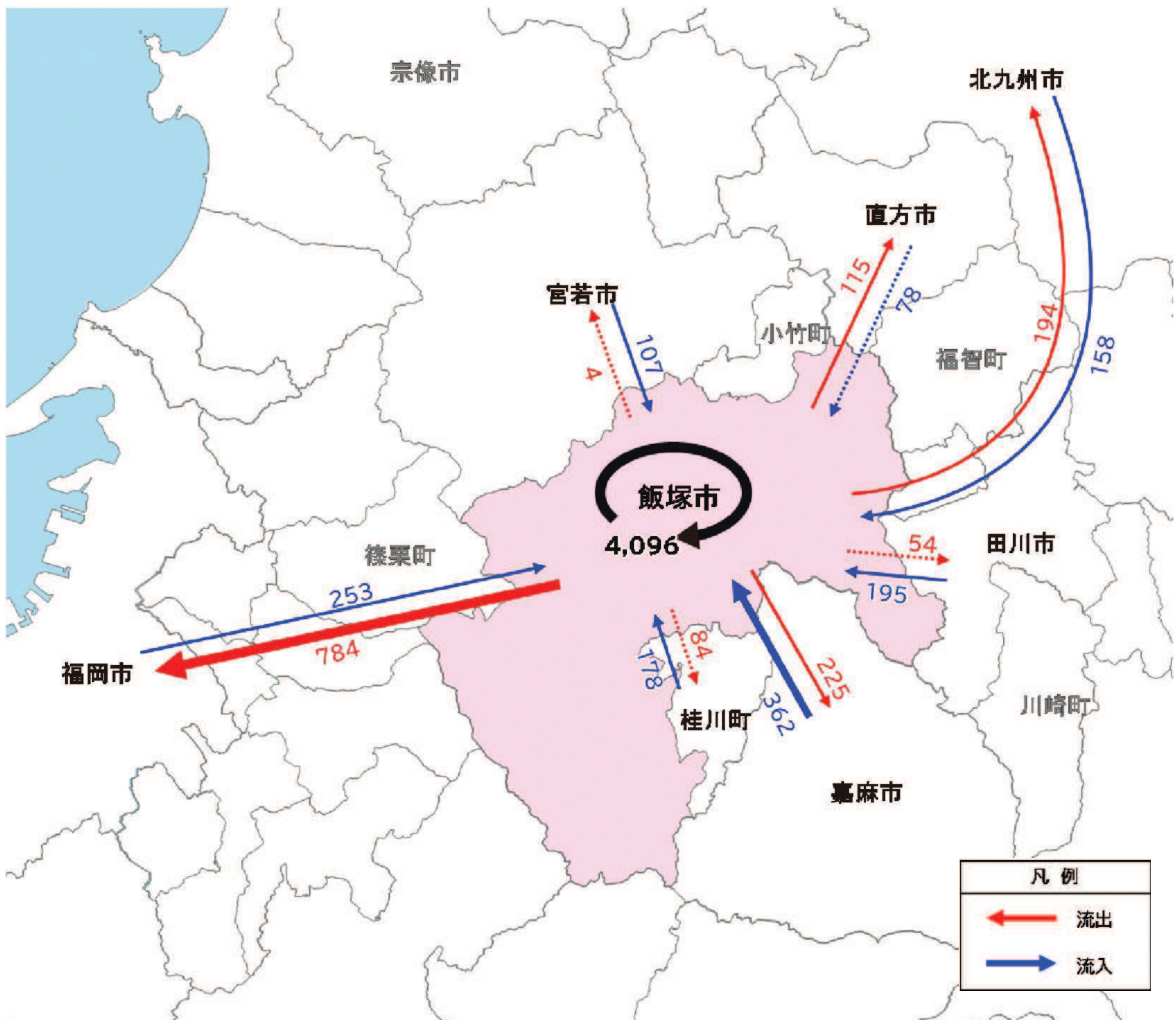


▲ 飯塚市と主な通勤先市町村との通勤流動

2) 通学の移動状況

- 飯塚市で居住する通学者数は約6千人で、そのうち、約4.1千人(約69%)が市内で通学しており、約1.7千人(約29%)が市外に通学しています。その主な市外通学先としては、福岡市が約780人(約13%)、嘉麻市が230人(約4%)となっています。
- 市外から飯塚市に通学している人は、約2.1千人となっており、通学では流入が約380人多くなっています。飯塚市に通学している人の主な居住地は、嘉麻市が約360人(飯塚市内の通学者の約6%)、福岡市が約250人(同約4%)となっています。

	人数	(%)		人数	(%)
市内居住通学者	5,981	-	市内通学者	6,398	-
うち市内通学者	4,096	68.5	うち市内居住者	4,096	64.0
うち市外通学者	1,723	28.8	うち市外居住者	2,100	32.8
うち不詳	162	2.7	うち不詳	202	3.2

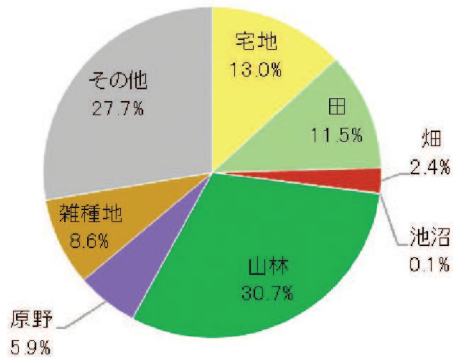


▲ 飯塚市と主な通学先市町村との通学流動

1-4 土地利用状況

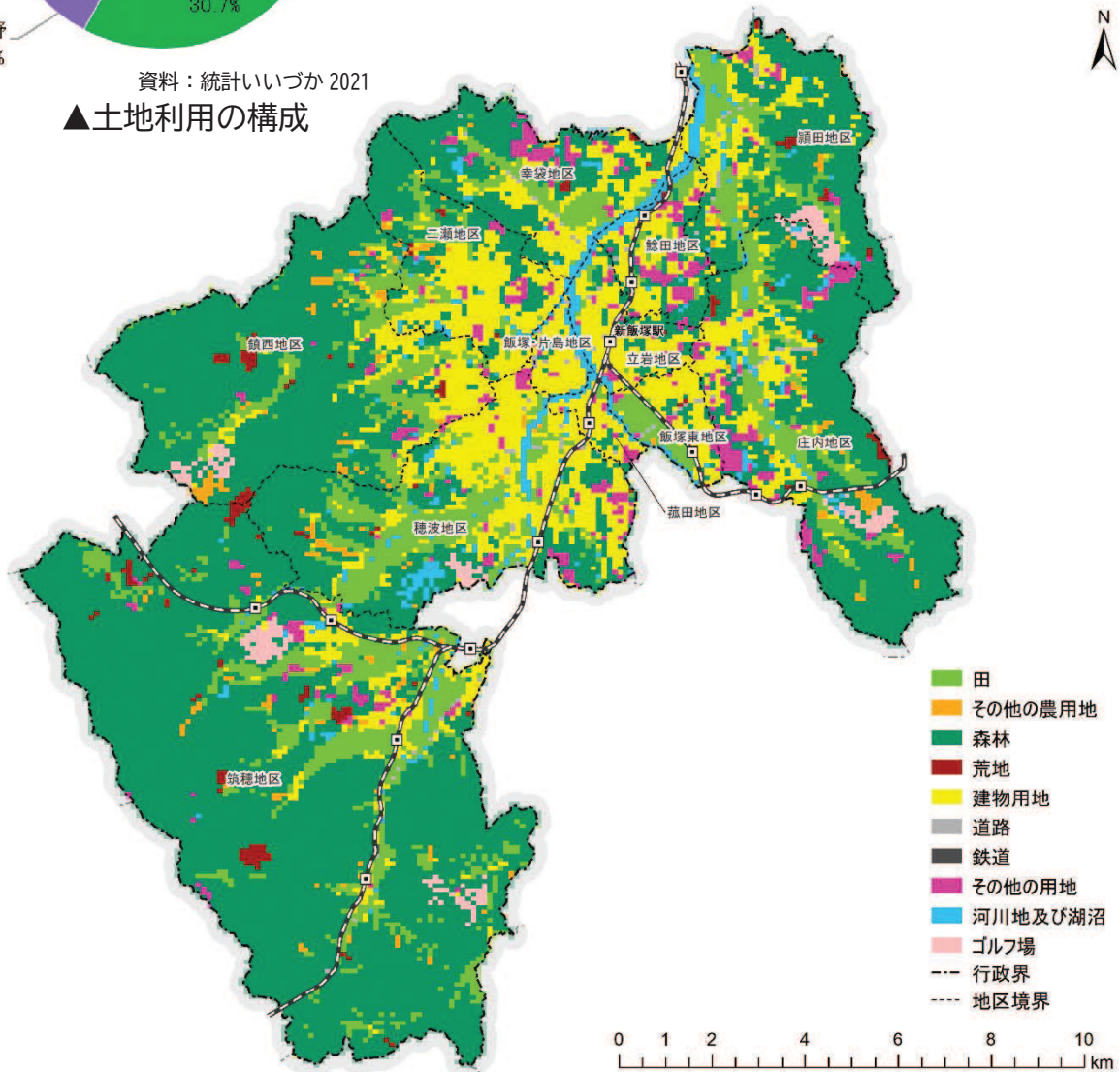
1) 土地利用現況

- 2021（令和3）年現在における本市の土地利用の構成は、総面積 213.96 km²のうち、宅地の割合が 13.0%、田・畑の割合が 13.9%、山林の割合が 30.7%となっています。



資料：統計いづか 2021

▲土地利用の構成



資料：国土数値情報（H28）

▲土地利用現況図

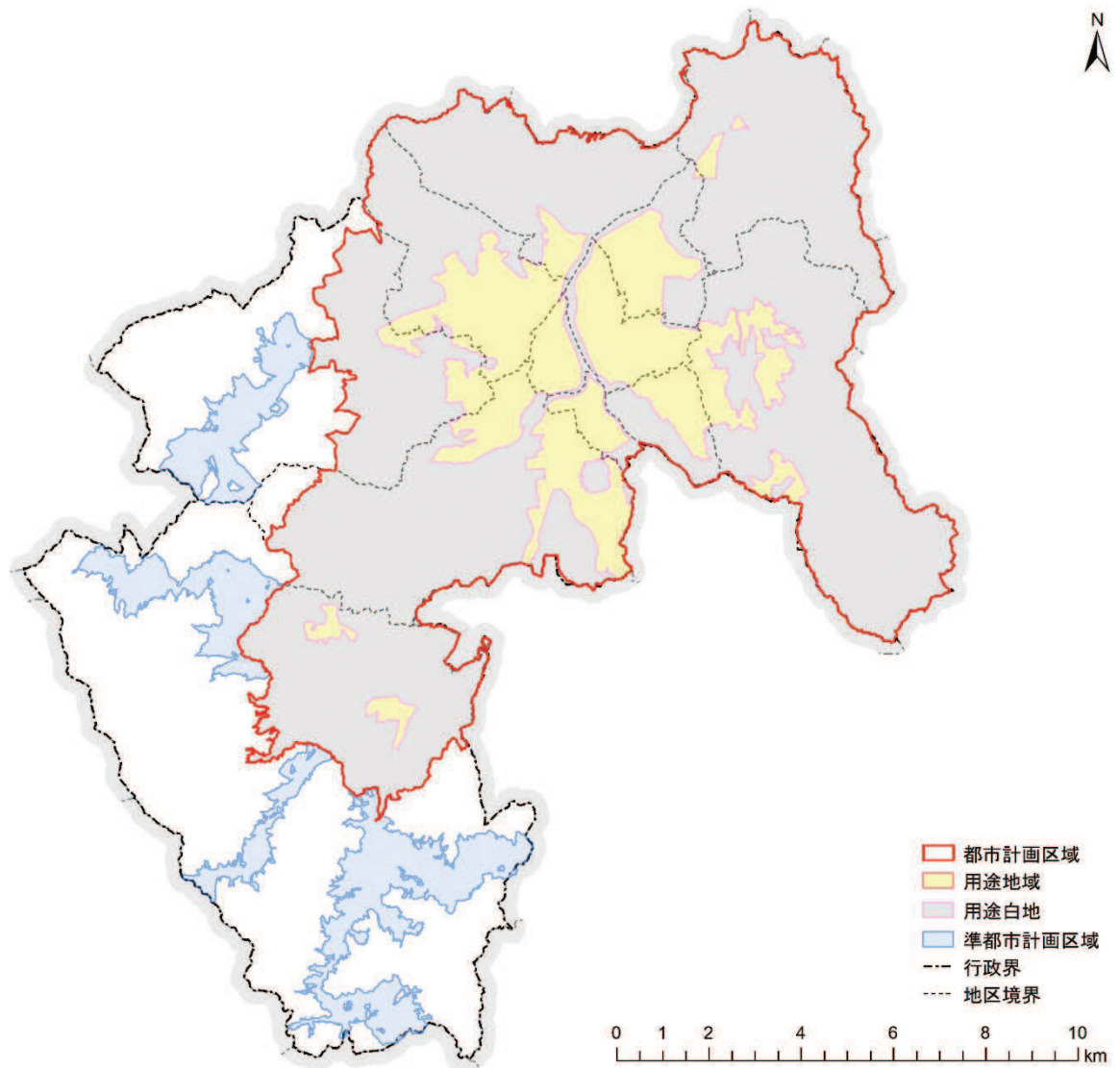
2) 都市計画区域

- 本市では、都市計画区域が 13,507ha（市域面積の約 63%）、準都市計画区域が 1,919ha（市域面積の約 9%）、用途地域が 3,053ha（市域面積の約 14%）指定されています。
- 都市計画区域内の土地利用状況は、農用地 17.7%、山林 34.1%、道路 7.7%、河川・水路 3.2%、宅地 18.4%、その他 18.9%となっています。

表 都市計画区域の土地利用区分と規模

市街地区分		合計	構成比	
自然的土地利用	小計	8,345.8	61.8	
	農地	小計	2,396.4	17.7
		田	1,913.8	14.2
		畑	482.6	3.6
	山林	4,599.8	34.1	
	水面	438.9	3.2	
	その他自然地	910.6	6.7	
都市的土地利用	小計	5,161.2	38.2	
	宅地	小計	2,489.0	18.4
		住宅用地	1,744.4	12.9
		商業用地	401.4	3.0
		工業用地	343.1	2.5
	農林漁業施設用地	40.0	0.3	
	公益施設用地	467.9	3.5	
	道路用地	1,043.7	7.7	
	交通施設用地	44.3	0.3	
	公共空地	283.8	2.1	
	その他公的施設用地	80.6	0.6	
	その他の空地	712.0	5.3	
	未利用宅地		0.0	
合計	13,507.0	100.0		

資料：R3 都市計画基礎調査



資料：R3 都市計画基礎調査

▲ 飯塚市の都市計画区域

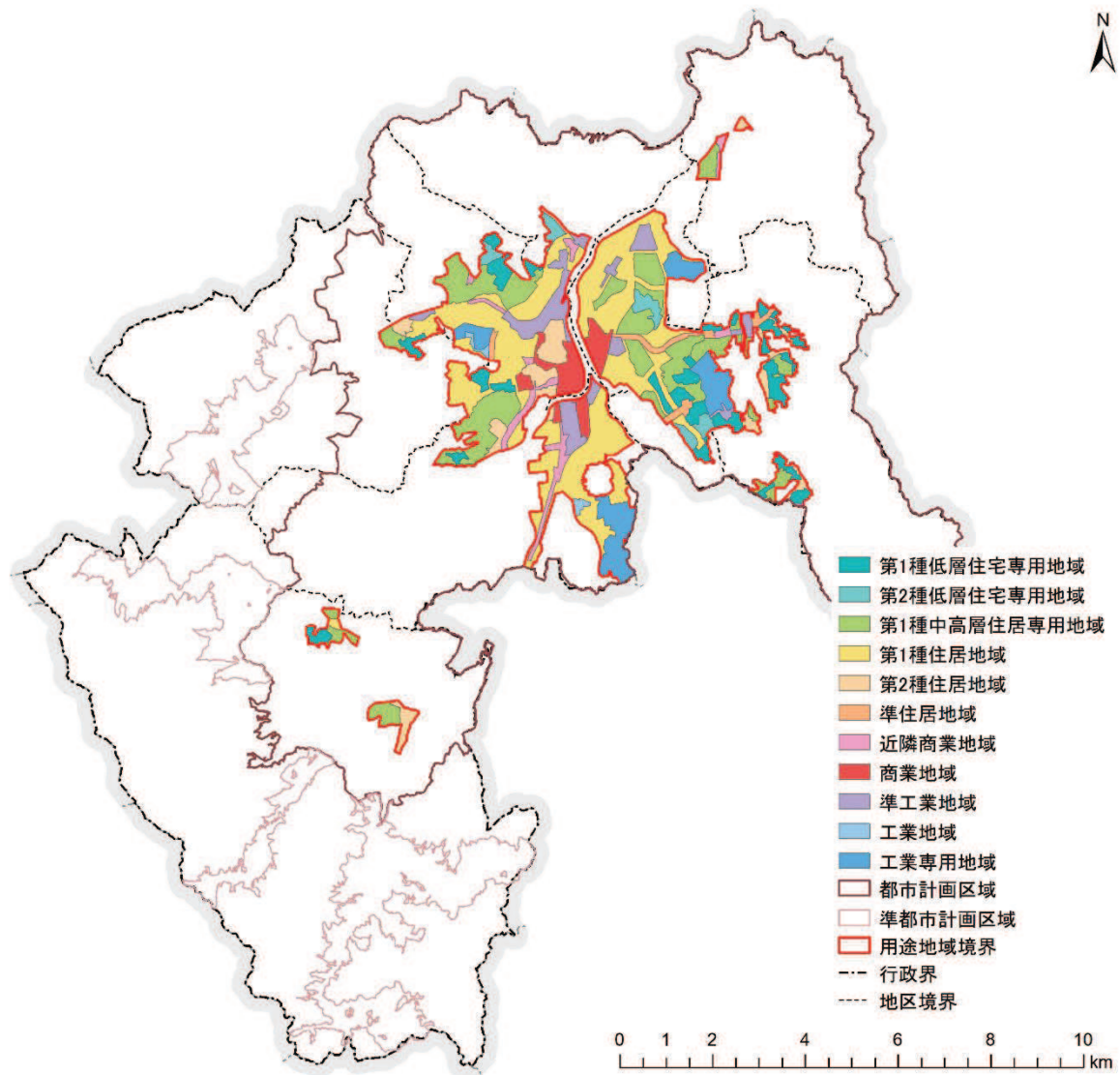
3) 用途地域

- 用途地域の総面積は3,053haとなっており、用途地域の構成は、住居専用地域と住居地域が77.4%、商業地域が7.8%、工業地域が14.7%となっています。

表 用途地域の区分と規模

区分	面積 (ha)	構成比 (%)
第1種低層住居専用地域	312	10.2
第2種低層住居専用地域	92	3.0
第1種中高層住居専用地域	601	19.7
第1種住居地域	1,114	36.5
第2種住居地域	187	6.1
準住居地域	58	1.9
近隣商業地域	98	3.2
商業地域	141	4.6
準工業地域	204	6.7
工業地域	16	0.5
工業専用地域	230	7.5
合計	3,053	100.0

資料：統計いづか 2021 (2021.3.31時点)



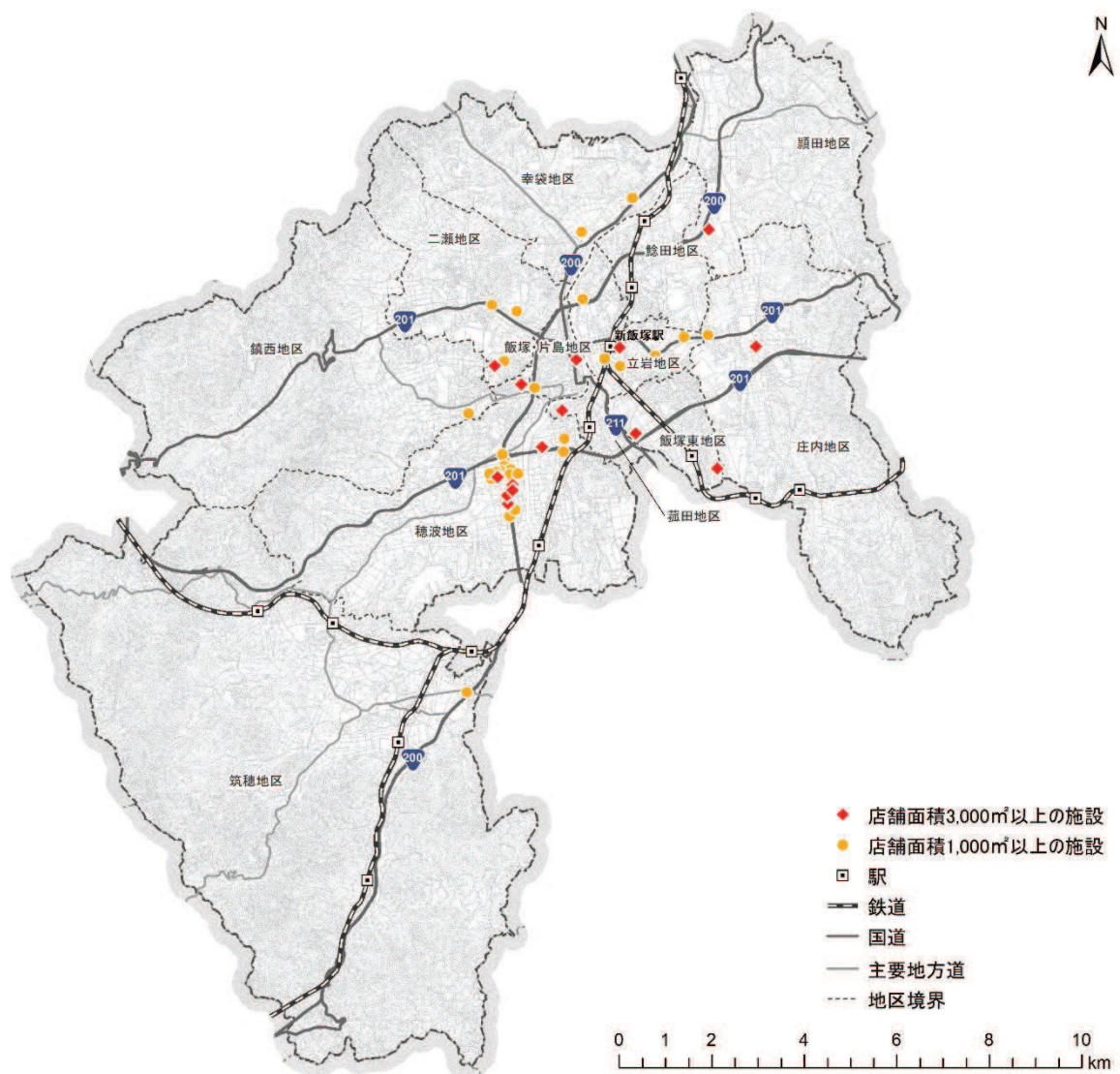
資料：R3 都市計画基礎調査

▲ 飯塚市の用途地域

1-5 主要施設

1) 大型商業施設

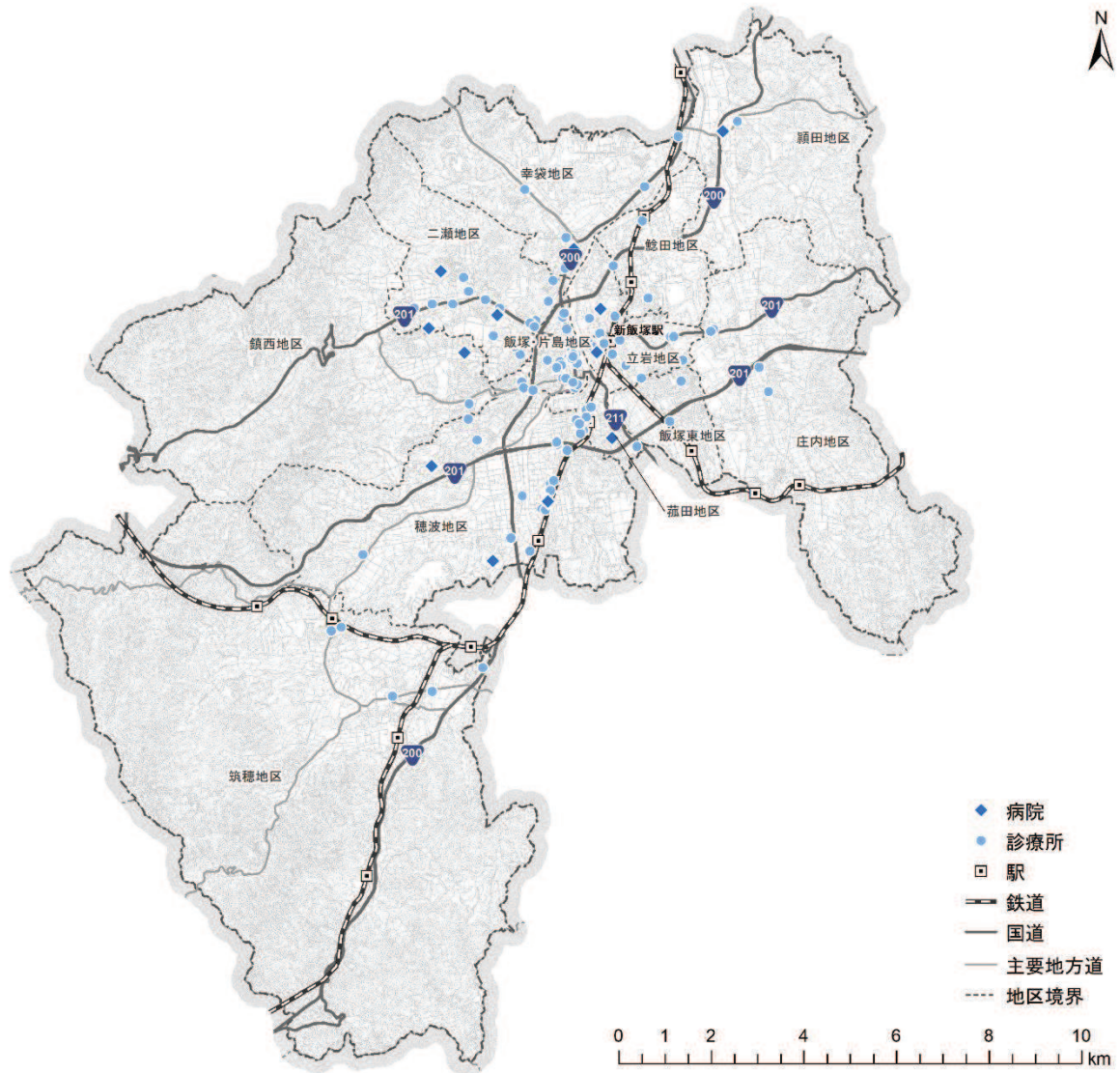
- 大型商業施設は、市内中心部のほか、国道 200 号や 201 号沿線に多く立地しています。
- 特に穂波地区の国道 200 号、201 号沿線には 10 店舗を超える集積がみられます。一方で、筑穂地区、鎮西地区などではほとんど立地がみられない状況となっています。
- また 2023 年夏には、菰田地区の旧地方卸売市場跡地に複合型大型商業施設が開業予定となっています。



▲ 飯塚市の商業施設の分布

2) 医療施設

- 本市の医療施設は、鉄道沿線や国道 200 号、201 号沿線の人口の集積している地域に多く立地しており、市内には 12 件の病院が立地しています。

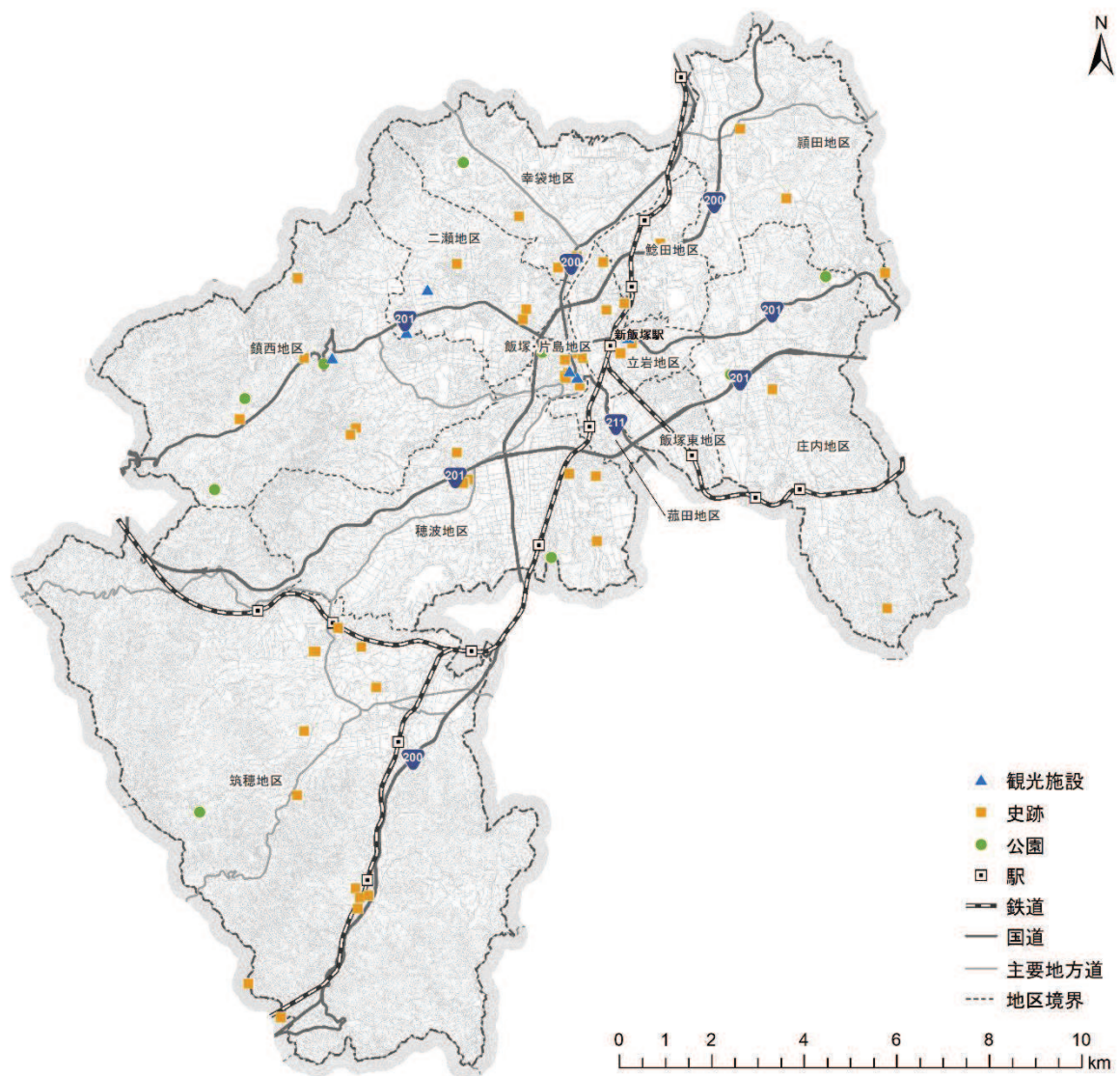


※ここでの病院は、入院病床が 20 床以上ある医療機関を示す

▲ 飯塚市の医療施設の分布

3) 観光施設

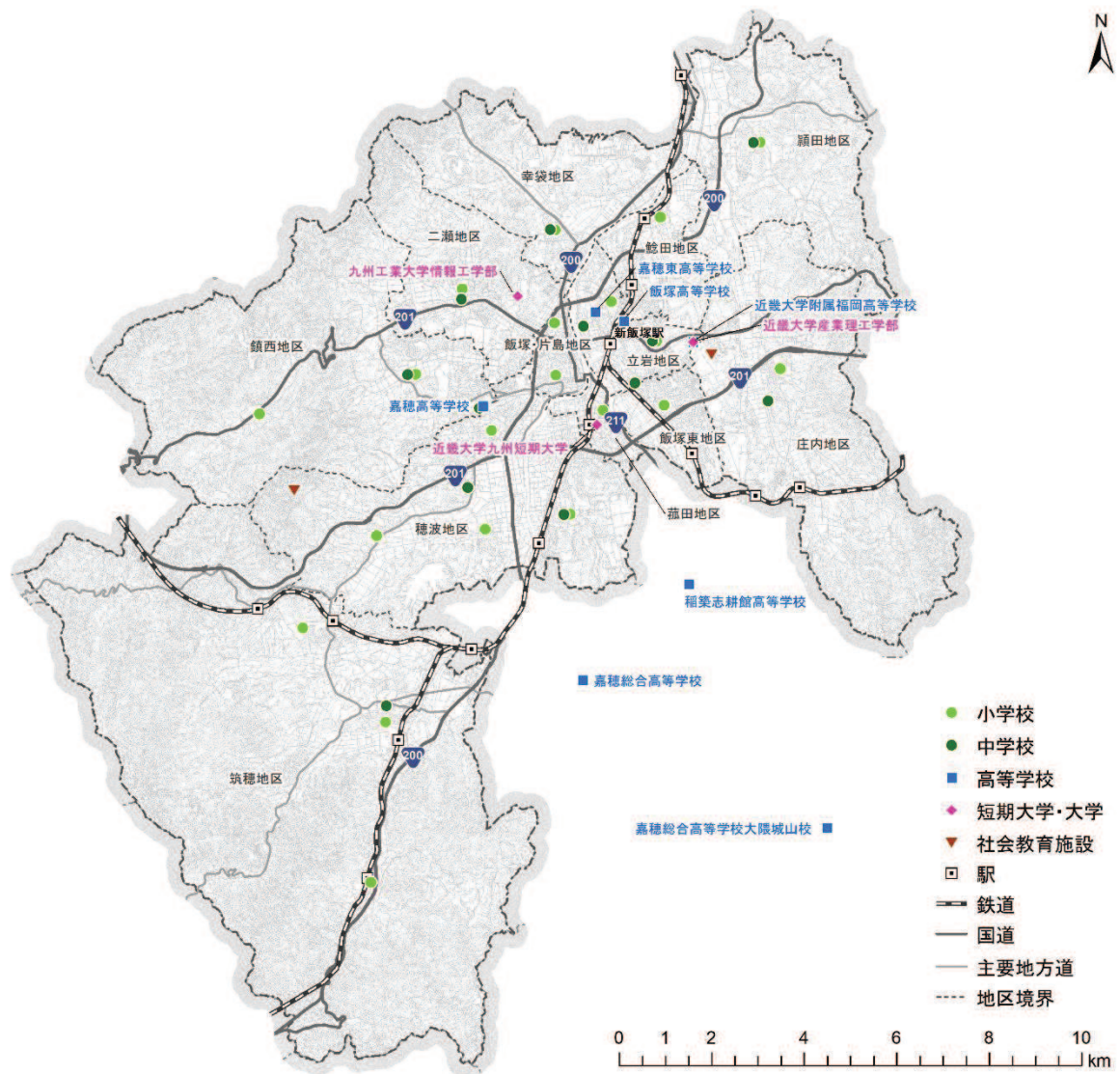
- 本市には、旧伊藤伝右衛門邸や嘉穂劇場をはじめ、炭鉱時代の栄華を残す史跡が数多く残っています。
- また、毎年5月頃に国際テニス連盟公認の飯塚国際車いすテニス大会が開催される筑豊緑地など、公園施設も充実しています。(2020～2022年の大会は中止)



▲ 飯塚市の観光施設の分布

4) 教育施設

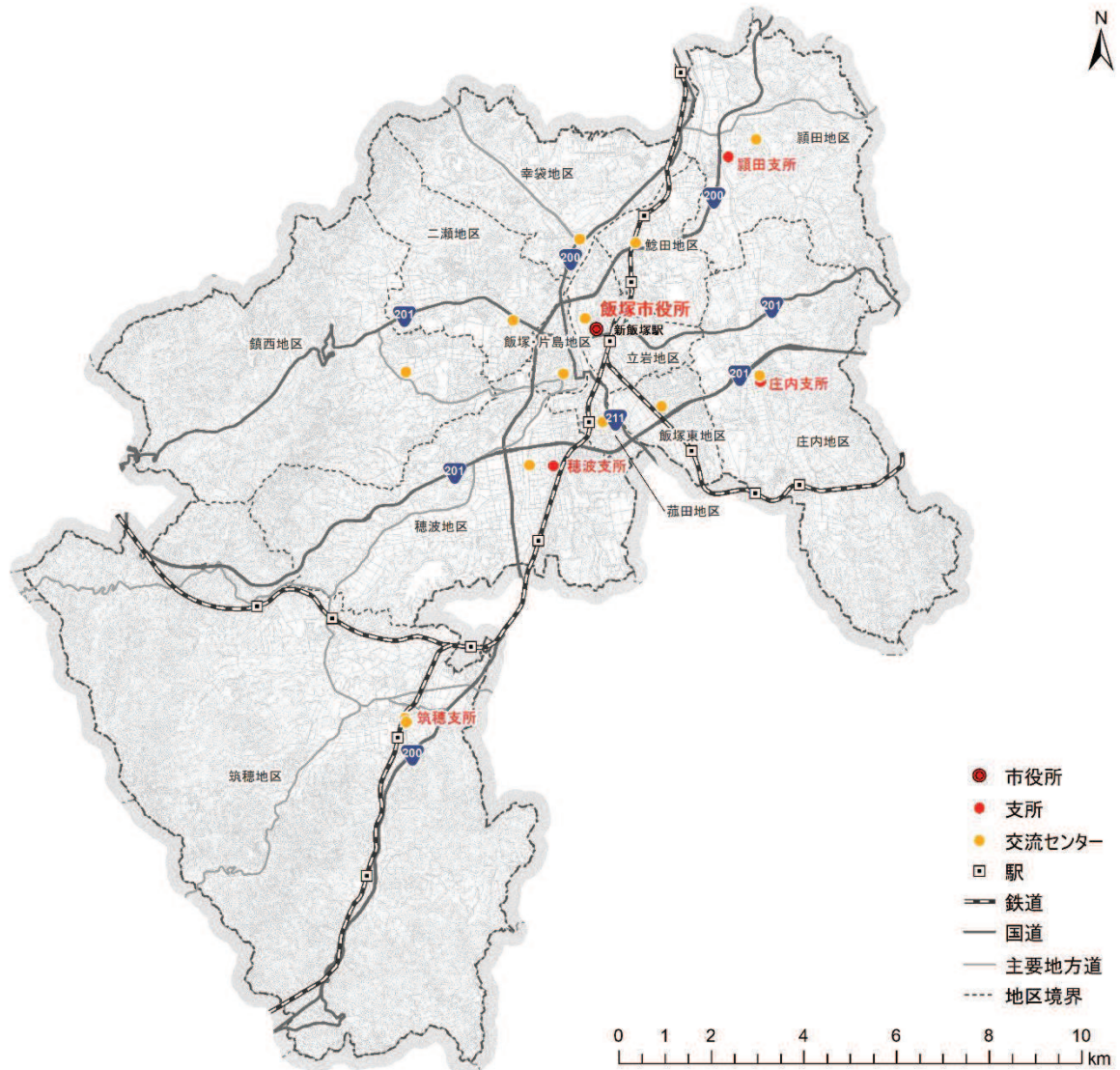
- 本市には、大学が九州工業大学・近畿大学・近畿大学九州短期大学の3校、高校が嘉穂高校・嘉穂東高校・飯塚高校・近畿大学附属福岡高校の4校が立地しています。
- また、市内には小学校が20校、中学校が12校（それぞれ小中一貫校を含む）立地しています。



▲ 飯塚市の教育施設の分布

5) 市行政施設及び交流センター

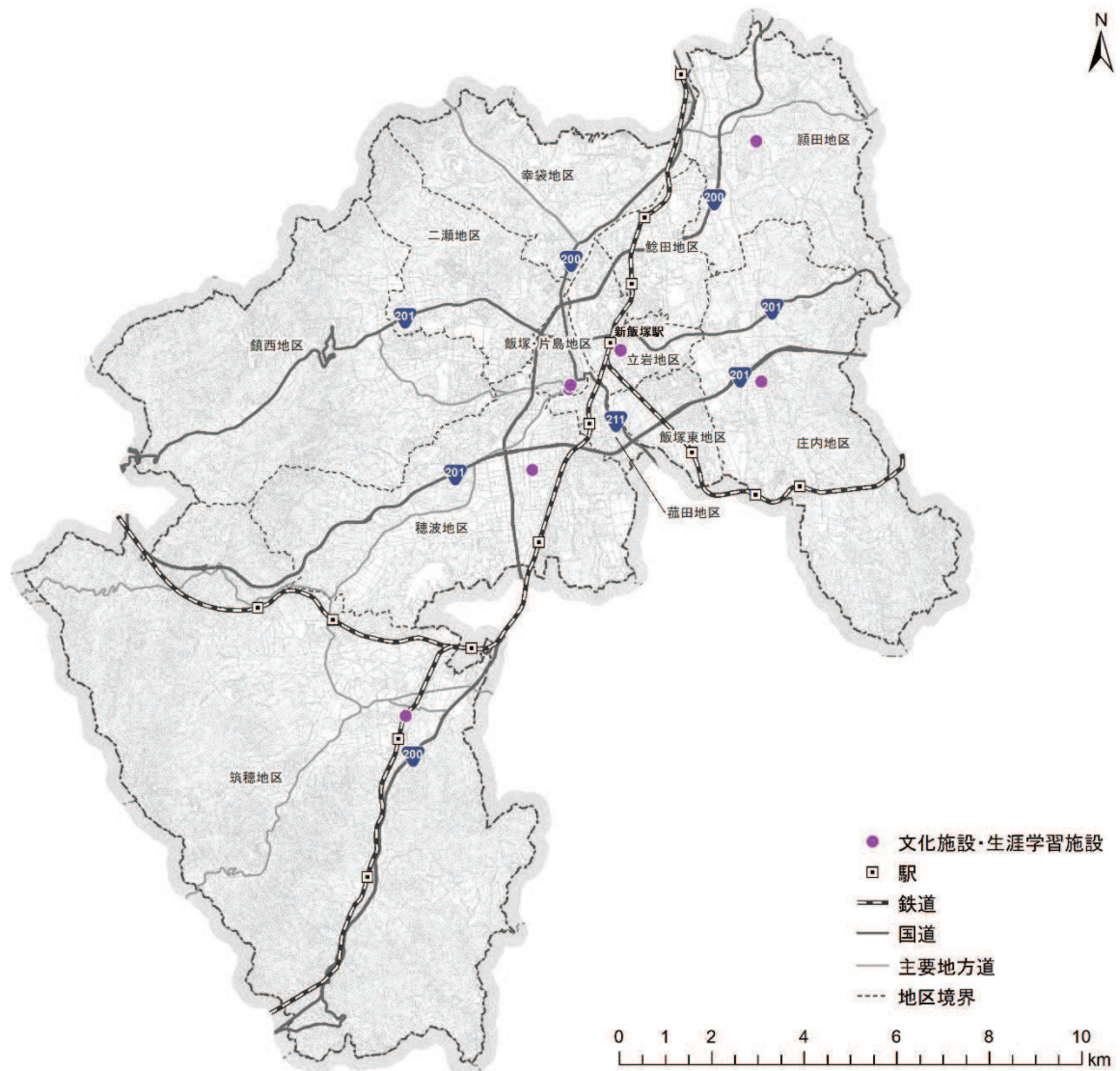
- 本市は、2006年に旧1市4町が合併し誕生した経緯から、市役所のほかに旧4町の地区である穎田地区・庄内地区・穂波地区・筑穂地区に支所が設置されています。
- また、各地区には交流センターが設けられています。



▲ 飯塚市の行政施設及び交流センターの分布

6) 文化施設・生涯学習施設

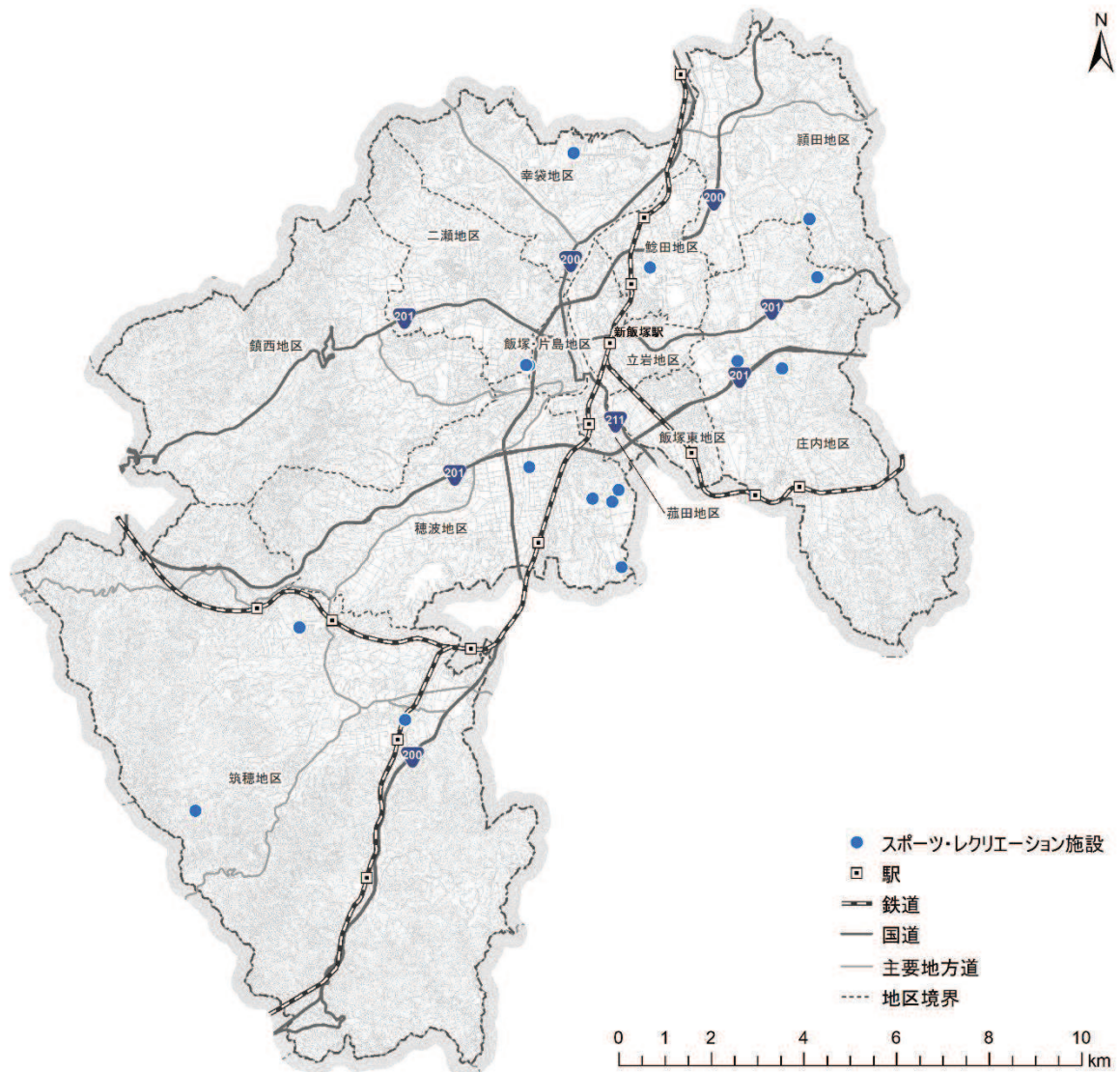
- 本市の文化施設・生涯学習施設は、飯塚市文化会館（飯塚コスモスコモン）や飯塚市歴史資料館、イイツカコミュニティセンターなどが立地しているほか、穎田地区、庄内地区、飯塚・片島地区、穂波地区、筑穂地区には市立図書館が立地しています。



▲ 飯塚市の文化施設・生涯学習施設の分布

7) スポーツ・レクリエーション施設

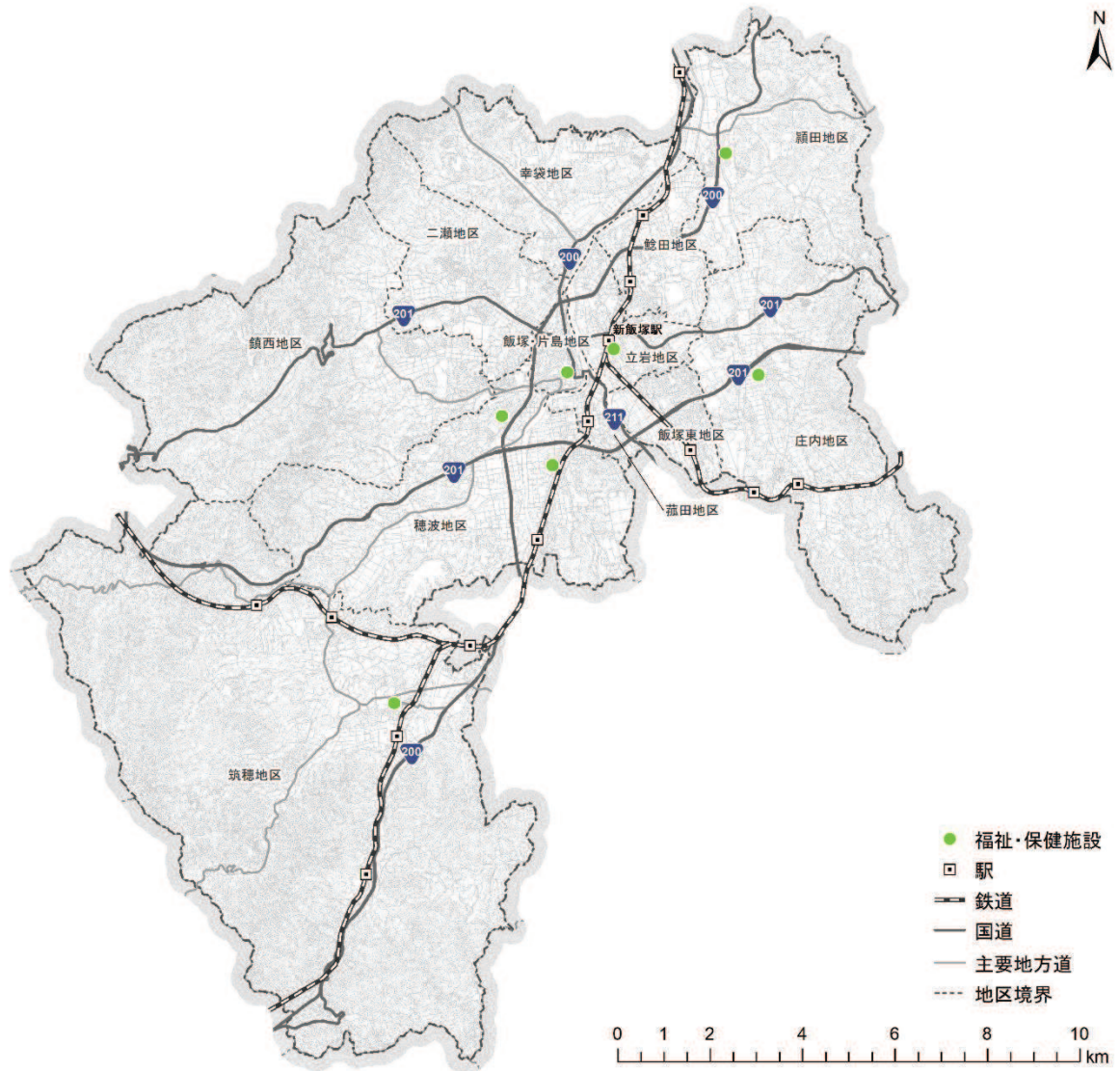
- 市内には、スポーツ・レクリエーション施設が点在しており、特に穂波地区では体育館や野球場、市民プールなどのスポーツ・レクリエーション施設が10施設立地しています。



▲ 飯塚市のスポーツ・レクリエーション施設の分布

8) 福祉・保健施設等

- 市内には、健幸プラザや飯塚市保健センター、サン・アビリティーズいづかのほか、保健福祉総合センターや高齢者福祉施設など合計7施設が立地しています。

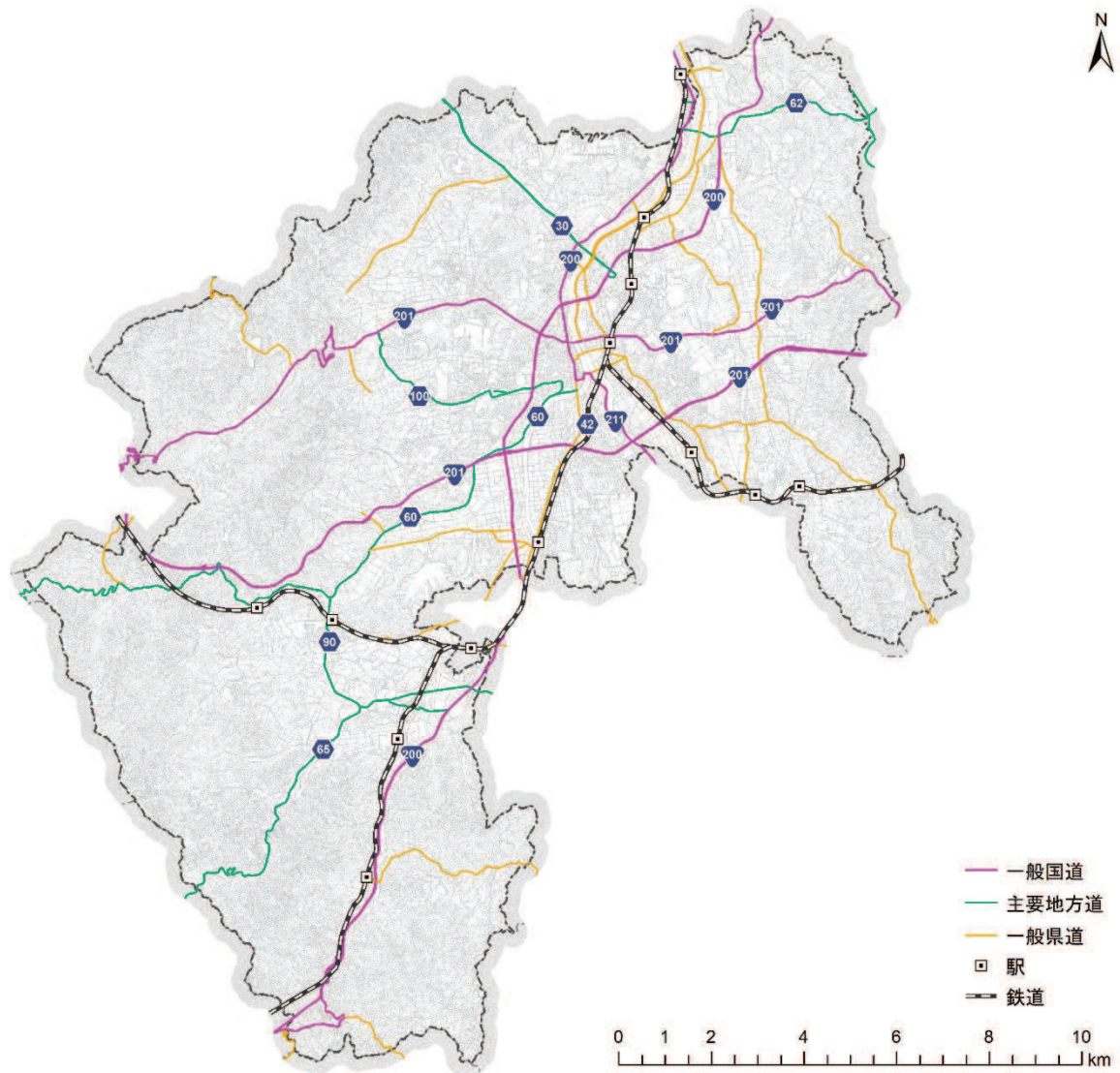


▲ 飯塚市の福祉・保健施設の分布

1-6 道路ネットワーク

1) 主要道路網

- 本市には、東西方向に国道 201 号、国道 201 号バイパスが、南北方向に国道 200 号、国道 200 号バイパス、国道 211 号が通過しており、それらの国道を骨格として市域の道路網が形成されています。
- また、福岡都市圏と本市を結ぶ重要な路線である八木山バイパスでは 4 車線化に向けた工事が進められており、篠栗 IC から筑穂 IC 間は令和 6 年度、筑穂 IC から穂波東 IC 間は令和 11 年度に開通予定となっています。



▲ 飯塚市の道路ネットワーク